

津 商 工 会 議 所  
中 期 ビ ジ ョ ン

「変革へのエンジンを始動」

平成 22 年 10 月

津 商 工 会 議 所

# 目 次

## はじめに 「変革へのエンジンを始動」

|      |                       |    |
|------|-----------------------|----|
| I    | 中期ビジョンの位置付け           | 1  |
| II   | 中期ビジョン策定の背景           | 1  |
| III  | 津のまちの現状について（津市の弱みと強み） | 2  |
| IV   | 現状からみた「津のまち」のイメージ     | 5  |
| V    | 津市が直面する課題             | 6  |
| VI   | 今後の商工会議所の基本的な考え方      | 6  |
| VII  | 商工会議所が対応していくべき事とその具体策 | 7  |
| VIII | 中期ビジョンの骨子とイメージについて    | 16 |
| IX   | 中期ビジョンの策定にあたって        | 17 |
| X    | 参考資料                  |    |

## はじめに

津商工会議所は平成17年4月1日、旧津、旧久居の商工会議所が合併いたしました。これは当時津市、久居市を中心とする2市8町村の平成17年1月1日合併予定が遅延する中、行政に先立って合併を実施したものであります。その結果、経済界の合併が行政の合併の牽引力となり、行政は一年遅れの翌平成18年1月1日に合併することができました。

当商工会議所は、合併後の新たな地域の活性化に向けた活動を行なっていくため、平成17年3月「新津商工会議所活性化ビジョン」を策定し、その基本方針に基づき事業活動を展開してまいりました。

しかしながら、商工会議所を取り巻く環境は、事業所数の減少という構造的要因と、長引く景気の低迷の中、企業の廃業や統合などにより商工会議所の会員数が年々減少しています。

平成20年度実施の「会員意識調査」では、会員の約半数が「お付き合いで加入」されており、今後の経営環境によっては、退会が予想されることがわかりました。

しかしながら、約7割強の会員が「会員でありたい」と希望されており、商工会議所に対する期待が大きいとも言えます。

今後とも当商工会議所が、地域総合経済団体としてその使命や役割を果たしていくためには、情報の発信力向上と存在感の強化、地場産業の振興や個々の事業所の利益に繋がる仕掛けづくり、また市民に対する活動など商工会議所が地域の活性化の原動力となっていく必要があります。

そのためには、従来の商工会議所の考え方から発想を転換し、時代の要請や会員のニーズを捉えた事業活動に取り組む「**変革へのエンジンを始動**」することが肝要であります。

そこで、平成20年度の創立115周年を契機に、今後の活動方針や事業の方向性等について運営・政策委員会中・長期ビジョンの策定及び推進に関する小委員会が中心となり、運営・政策委員会委員や当会議所青年部会員から「津のまちの現状（津市の弱みと強み）」についての意見をまとめ、当商工会議所の中期ビジョンを策定しました。

また、津市が将来に亘って夢のある、住みよい街にしていくため、当商工会議所管内の小学校、中学校の子供達に「将来どのような津市になれば良いか」の声を聞き、当ビジョンに反映いたしました。

ご協力いただきました関係機関各位に厚くお礼申し上げます。

平成22年10月29日

津商工会議所 副会頭

運営・政策委員会

委員長 飯田俊司

津商工会議所運営・政策委員会

中・長期ビジョンの策定及び推進に関する小委員会

委員長 辻正敏

## I 中期ビジョンの位置付け

- ・平成22年11月～平成29年3月(6年間)までの活動指針を示す
- ・具体的な事業活動は、年度毎の事業計画に記載し実行する。
- ・ビジョンは随時、進捗状況や成果等を検証し、柔軟に見直す。

## II 中期ビジョン策定の背景

### 1. 事業所数の減少

- ・全国の商工会議所会員数  
平成12年:143万人 → 平成21年:122万人 (21万人減少:9年連続)
- ・当商工会議所管内の事業所数 ※1  
平成13年度 10,344事業所 → 平成18年度:9,278事業所(1,066事業所減少)
- ・当商工会議所会員数  
平成13年度 4,191 会員 → 平成21年度:3,392 会員(799 会員減少)  
(平成13年度は、合併前の津・久居商工会議所の会員数を足した数値)

※1 事業所統計より、合併前の津・久居商工会議所管内の事業所数を足した数値  
(事業所統計は、5年に一度実施)



商工会議所の会員数の減少は、事業所数の減少という構造的要因と、長引く景気の低迷の中、企業の廃業や統合などが大きな要因となっている。

### 2. 会員メリットの充実

#### 会員加入の現況(H20 年度会員意識調査より)

- ・会員の約半数が「お付き合いで加入」→事業所経営環境によっては、退会が予想  
⇒ **財政難**を意味する

#### 会員の商工会議所への期待(H20 年度会員意識調査より)

会員の7割強が「会員でありたい」と希望  
↓  
メリットにかかわらず継続する  
人間関係を広めたいので入会している  
↓  
今後の商工会議所に対する期待が大きい  
↓  
事業所経営に直接プラスとなる会員メリットの充実  
会員ニーズに対応したサービスの提供

### Ⅲ. 津のまちの現状について（津市の弱みと強み）

#### （１）精神的な部分で特徴的な面

| <弱み>   | <強み>   |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・外に向ってのアピール下手(PR 下手)</li> <li>・出る杭は打たれる風土</li> <li>・前向きに考える姿勢が感じられない(薄い)</li> <li>・閉鎖的</li> <li>・市民感情は排他的、努力不足、甘えなど。原因はそこそこの豊さと人情味が挑戦しない負の要素</li> <li>・一丸となって一つのものに挑戦しない</li> <li>・他人任せ(誰かがやるだろう)</li> <li>・一つのことに徹しない</li> <li>・人の揚げ足をとる市民性</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人が温かく穏やか(おっとりしている、優しい)</li> <li>・譲り合う気持ちが強い人が多い</li> </ul> |

#### （２）自然環境

| <弱み>  | <強み>   |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的に県の中心となり得ない</li> <li>・川に挟まれたまち(岩田川と安濃川)</li> <li>・季節感、風土等を活かした場所が無い</li> <li>・台風がよく通る</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・白砂青松の 2 kmの海岸</li> <li>・空気がきれい</li> <li>・山(美杉)から川(雲出川)、川から海(伊勢湾)まである恵まれた環境</li> <li>・すべての食材(海産物、野菜、果物など)に恵まれる</li> <li>・気候温暖</li> <li>・災害が少ない</li> <li>・地理、自然、気候のすべてで恵まれている</li> </ul> |

#### （３）まちのインフラ整備

| <弱み>  | <強み>   |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・広範囲でまとまりが無い</li> <li>・独自の文化施設が希薄</li> <li>・東西の道路アクセスが悪い</li> <li>・市の中心に刑務所がある</li> <li>・中心部の国道で東西に分離</li> <li>・国道の幅員が広く中心部に来ると自動車は速度を上げる</li> <li>・学校区による人口定住の偏り</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中京圏より 1 時間、関西圏より 1.5 時間</li> <li>・中部国際空港まで 40 分</li> <li>・名古屋、東京、大阪への利便性が良い</li> </ul> |

#### (4) 集客資源として（観光資源を除く）

| <弱み>  | <強み>  |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・店が少ない</li> <li>・中心市街地と言われるところが分散している</li> <li>・活力が無い</li> <li>・商店街がバラバラ</li> <li>・商店の閉店時間が早い</li> <li>・飲み屋街が少ないし安価でない</li> <li>・大学があるのに中心市街地へ来ない</li> <li>・デートスポットが無い</li> <li>・どこが中心かわからない</li> <li>・買物するところが少ない</li> <li>・街がきれいでない</li> <li>・街に花が少ない</li> <li>・公共施設などの使用料が高い</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショッピングセンターが近隣に多い</li> <li>・新鮮な食材が入手しやすい</li> <li>・料理屋が多い</li> <li>・中部国際空港まで 40 分</li> <li>・歴史的文化人が多い</li> <li>・地名が一文字</li> <li>・ヨットハーバーがある</li> </ul> |

#### (5) 観光資源

| <弱み>  | <強み>   |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・良いものはあるが全国で認知されていない(発信されていない)</li> <li>・海、山など観光資源になるものはあるのにそれらの連帯感が無い</li> <li>・若者が集まるアミューズメントが無い</li> <li>・有名私立大学がない</li> <li>・全国から見て有名な魅力的なものが無い</li> <li>・特徴が無い</li> <li>・ホテルが少ない</li> <li>・名物が少ない(あるいは無い)</li> <li>・有名人が少ない(あるいは出ない)</li> <li>・スポーツ施設が少ない</li> <li>・子供の遊び場が少ない</li> <li>・歴史があるのに活用されない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・鰻、梨、温泉など特産物、資源が多い</li> <li>・鰻が安くて美味しい</li> <li>・刺身が美味しい</li> <li>・伊勢志摩に近い</li> <li>・榊原温泉(日本三名泉)がある</li> <li>・津観音(日本三観音)がある</li> <li>・津まつりは盛大</li> <li>・津城址がある</li> <li>・文化レベルが高い</li> <li>・郷土芸能と呼ばれるものが多い</li> <li>・歴史的文化人が多い</li> <li>・漢字もひらがなもカタカナも一文字のまち</li> <li>・県庁所在地</li> <li>・公営ギャンブル(津ボート)がある</li> <li>・三重大、三重短大がある</li> <li>・治安が良い</li> <li>・犯罪が少なく安心した街</li> <li>・市の面積が大きい(700 平方 km)</li> <li>・日照度が高い</li> <li>・ゴルフ場が多くプレイ代も安い</li> <li>・シロモチ君がいる</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛隊がある</li> <li>・青山高原の風車</li> <li>・伊勢木綿(手織りも可能)</li> <li>・高速道路インターチェンジと津なぎさまちが近い</li> <li>・中部国際空港が近い</li> <li>・東京、名古屋、大阪へのアクセスが良い</li> <li>・言葉に訛が少なく、全国どこの人にも言葉がわかりよい</li> <li>・外国人が増えた</li> </ul> |
|--|--|

## (6) 歴史文化

| ＜弱み＞  | ＜強み＞  |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーシップのある政治家がいない</li> <li>・有名人が少ない(出ない)</li> <li>・歴史があるのに活用されない</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・津城址、お堀がある</li> <li>・津発祥のものが多い</li> <li>・歴史的な文化人が多い</li> <li>・歴史的な文化遺産が多い(北畠神社など)</li> <li>・古い歴史がある</li> </ul> |

## (7) その他(フィーリング等も含めて)

| ＜弱み＞   | ＜強み＞   |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・活力が無い</li> <li>・都会が遠い</li> <li>・時間をつぶす場所が無い</li> <li>・他人に頼る人任せ</li> <li>・夜が寂しい、静か</li> <li>・若者に元気が無い</li> <li>・深夜が静か過ぎる</li> <li>・人情はあるが情にもろい</li> <li>・覇気が無い</li> <li>・人を見る(横並び)</li> <li>・街に一体感、統一性が無い</li> <li>・ホスピタリティが無い</li> <li>・合併で一体感やまとまりがなくなった</li> <li>・車がないと不便</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物が美味しい</li> <li>・地理的に日本の中心</li> <li>・津という名前</li> <li>・地元の人間的な結びつき</li> <li>・まちなかがゴミゴミしていない</li> <li>・豊かな水量</li> <li>・大きな平地がある</li> <li>・教育熱心な土地柄</li> <li>・住みやすい</li> <li>・医療機関が多い</li> <li>・近鉄とJRが一緒の駅は便利</li> <li>・地銀が地域の中小企業を支えてくれる都銀に無い温情がある</li> <li>・落ち着いたまち</li> <li>・企業の支店、営業所、ショールームが多い</li> <li>・業種に偏りが無い</li> </ul> |

## IV. 現状からみた「津のまち」のイメージ

### (1) 風光明媚な土地柄

津は、三重県の県庁所在地であり、日本のほぼ真ん中に位置する。平成 18 年に近隣 10 市町村が合併し新しい津市となった。面積は何と 700 平方kmで琵琶湖の面積に匹敵する。東に伊勢湾、西に布引山地がある。自然環境には恵まれすぎるほど恵まれている。東の伊勢湾に面した海岸には白砂青松の砂浜があり、西の青山高原には風力発電の風車が立ち並んでいる。水もきれいで美味しく、その量も豊富である。災害も少ない。

### (2) 中京圏、関西圏へのアクセスは良好

津市の都市基盤は津市の施設ではないが、県庁所在地なので県の施設が多くあり津市民はそれらを活用している。道路網は国道 23 号線が市中心部を南北に通っている。この道路は中心市街地にくると片側 4 車線の幅員 58m で、走る自動車が速度を上げるといって全国でも珍しい道路である。しかし東西の道路網は更に充実させる必要がある。また高速道路や鉄道を利用すれば中京圏、関西圏へのアクセスも便利である。更に伊勢湾に面して「津なぎさまち」という港があり高速艇で中部国際空港まで 40 分で結ばれる。

### (3) 歴史・文化のまち

歴史や文化においては、恵日山観音寺(通称観音さん)、真宗高田派の本山である専修寺、津城址などが上げられる。また歴史上の人物は藤堂高虎、お奈津の方、来年の NHK 大河ドラマに決まった江など。文化人としては実業家であり芸術家であった川喜田半泥子を忘れてはならない。

### (4) まちの活力は衰退、レジャー施設は充実

市内の状況は、以前から叫ばれている商店街の疲弊はかなり深刻。何をやっても盛り上がらない状況にある。また市内に三重大学、三重短期大学などが所在するが中心市街地には若者が来ない状況にある。中心市街地に気楽に安価に食事が出来る場所やデートスポットなど若者が集まる環境が望まれる。またまちの美化にも力を入れたい。公営ギャンブルの競艇「津ボート」がある事、そして市内にはゴルフ場が 23 箇所あり安価にプレーできる事も特筆できる。その他最近流行りの産業観光として伊勢木綿の手織りも出来る。

### (5) 豊かな食と温厚な人間性

食生活は海産物、野菜、果物、肉類といった食材に恵まれ食生活においては全国的に豊かなまちと言えるのではないかと。また鰻はこのまちでは一般的であり安価で消費量も多い。手土産に使われる名物といわれるものはあるがどれも全国的な知名度はないといえる。名物自体がないという言葉も聞く。

このまちの人々は、外に向って発信する事が苦手で、見方によっては閉鎖的に見える。また「出る杭は打たれる」といった風潮も見られると指摘する声もある。しかし一般に穏やかで暖かく、譲り合う気持ちの強い人間性である。凶悪犯罪もなく治安は良く穏やかなまちである。



## V. 津市が直面する課題

- (1) 情報の発信不足(津市内外に対する不足)
- (2) 地場産業の振興
- (3) 市民に対する教育

## VI. 今後の商工会議所の基本的な考え方

|                            |
|----------------------------|
| ・ 情報などの発信機能の充実             |
| ・ 情報発信できる独特の事業の実施          |
| ・ 個々の事業所が参画できるフィールドの提供     |
| ・ 事業所間の競争により事業所が創意工夫する意識付け |
| ・ 個々の事業所に応じたサービスの提供        |
| ・ 地域住民や小学生、中学生等を対象とした活動    |
| ・ 教育委員会等では出来ない子供達への教育      |
| ・ 従来の概念にとらわれない既存の活動から脱皮    |
| ・ サービス業としての意識改革            |
| ・ 特産物や地場産業などを育成するための活動（PR） |
| ・ 全国47都道府県のネットを活かしたワーク活動   |



### キーワード

- 従来の商工会議所の考え方を変える（意識改革）
- 情報の発信力向上と存在感の強化（発信力）
- 商工会議所が地域の活性化の原動力となる（行動力）
- 事業所の利益に繋がる仕掛けづくり（先導力）



### キャッチフレーズ

**変革へのエンジンを始動**

## Ⅶ 商工会議所が対応していくべき事とその具体策

### (1) 行政では出来ない外への情報発信

#### 1. 全国屈指の恵まれた住環境の他地域へ情報発信

津は、三重県の県庁所在地であり、日本のほぼ真ん中に位置する。平成18年に旧津市をはじめ近隣10市町村が合併し新しい津市となった。面積は何と約700平方km、日本で一番大きな湖の琵琶湖の面積に匹敵する。勿論三重県ではもっとも広い。面積で全国では94位である。

津市の自然環境は東に伊勢湾があり白砂青松の海岸が美しい。西には布引山地があり青山高原には環境保全に寄与する風力発電の風車が立ち並び眼下には清少納言ゆかりの美人の湯といわれる「榊原温泉」がある。気候は温暖。水は豊富で美しい。昭和中期には伊勢湾台風など台風の通り道であったが気候変動のせい最近では台風被害をはじめ自然災害も少ない。凶悪犯罪も少なく治安は良い穏やかなまちである。気候温暖、風光明媚、水が豊富で災害が少なく、可住面積が大きくて(290平方km 全国43位)住みよいまちベスト10に入るのではないかと考える。

津は住んで損のないまち、普段の生活をするにはもってこいの土地ではないかと考える。

(ちなみに可住面積1位は北海道別海町、浜松3位、横浜12位、岡山13位、神戸27位など。もっと津のまちに住みにいらっしやいとPRすべきと考える。)

#### 2. 津へ来ていただける仕掛けづくり

鉄道や高速道路による名古屋、大阪へのアクセス、津なぎさまちより高速艇での中部国際空港へのアクセスは、強みとしてとらえる向きもあるが、逆に出て行き易いことでもあるので流出より流入を促進させる施策を考えるべきである。例えば、道路における「行かせたいところへ行ける」案内看板設置、鉄道駅周辺への総合案内所、津なぎさまちの食のアミューズメント化、中部国際空港での旅行客誘導活動等どんどん積極的に提案していくことが大切であると共に、「人から見える動き」がなければ実現はしないと考えた方が正しい。

#### 3. 津市の食資源の豊富さを認識し内外に発信する。

食生活は、海産物では白塚の小女子、前ものの小魚、マテ貝、青柳など。牛、豚、鶏の肉類に關しても豊富。野菜も沢山生産される。果物も久居の梨は有名。本当に食生活は豊かなまち。また鰻は津市では一般的な食べ物で消費量も多く他県と比べると安価。

#### 4. 津市の名物銘菓と自信を持って全国に発信できるものづくりの促進。

手土産に使う、俗に名物と謳っている銘菓は製菓業の数だけあり多い。しかしどれも全国的な知名度には乏しく、津には名物がないという声もある。津を代表する銘菓と言えるものを今まで市民が選んだことはないのではないだろうか。名物・銘菓という品物に商工会議所が作成したアンケート用紙を同封し、品物の届け先から返送していただくことでその評価を見たり、商工会議所が音頭をとり、「本当の津の名物・銘菓はどれだ」でコンテストを行い公式手土産を選定するのも面白い。



### <具 体 策>

- ・ 様々な着眼点からの津市のランキングを確認
- ・ 津市出身の芸能人（掘り起こし）
- ・ 「来て住まないか」運動
- ・ 津市内の観光ルート作成
- ・ なぎさまちコンサート企画発信
- ・ なぎさまち運動会
- ・ 国道・フェニックス市街地F 1
- ・ ツイッターを活用した情報発信

## (2) 行政に対する情報発信

### 1. さらに充実した社会基盤の整備を提案提言

津市の社会基盤整備は県庁所在地との立地で市以外の三重県や公的機関の施設に依存している部分があると考え。津市民が日常に利用する施設として三重県総合文化センター、多目的コンベンションセンター・メッセウイングみえ、医療施設では、市民病院はなく、三重大学附属病院、三重中央医療センターや民間総合病院がそれに変わる。また、高齢者利用施設、介護施設の充実、このあたりは商工会議所や青年会議所などまちづくり団体が会員や市民の声を汲み取り、計画案の検討を行い、優先順位をつけて行政に提言していくことでより市民が住み良いまちの実現が出来るであろう。

道路については市中心街に差し掛かって自動車が速度を上げる片側4車線の国道23号線は過去に歩道側1車線を駐車帯にする等計画がなされたが再度その案を浮上させ、不足気味と言われる市内東西アクセス道建設とともに商工会議所が音頭をとり市民運動として実現に向ける動きが必要であろう。

### 2. 既設の施設の使い道を提案提言

このまちには津市競艇事業部が行う公営ギャンブル「津ボート」がある。華やかになりし過去には一日に百億円以上売り上げたこともあるとか。暴力団関係が出入したことで人は行かなくなった。総工費300億円以上といわれる施設が汚れ、市は暴力団関係の排除を行った。いろいろな制約があるのかも知れないが、船券を買って競艇を楽しむだけの施設でなく、もっと多目的に使える施設に変えていってはどうか。またゴルフ場は、短いコースも含めて23のゴルフ場が津市にはある。夏の日の出から日没までいくつかのゴルフ場を使ってのマラソンゴルフ等はどうだろう。ギネスに挑戦も良いだろう。



### < 具 体 策 >

- ・ 社会資本整備への提案提言
- ・ 子供の遊び場大募集  
家の空き地を使って下さい

### (3) 土産物（名物）開発や地場産業の会議所独自の見直し

#### 1. 食の掘り起こしと開発

津には、全国消費量日本一といわれる「鰻」や最近ではB級グルメと言われる「津ぎょうざ」もある。これらは、昔から地元の食生活に自然と食されてきたものである。鰻と津ぎょうざは一例であるが、地域を見渡せば、海産物、肉類も豊富。野菜、果物も沢山生産される。

また、津には、伊勢神宮参りの関係からか、もち菓子や和菓子などが多くある。本当に食生活は豊かなまちであり、まだまだ知られていない産物や商品が数多くある。これらを掘り起こし、「津ブランド」として、地域が誇りを持って言える郷土の土産物や産物を育てることが必要である。

#### 2. 地場産業の見直しと育成

津には、古式ゆかしい手織り機で作った伊勢木綿の小物品や草履もある。現在では数少なくなったが、昔からの地場産業であるタオルなどは、新しい発想で新製品が開発されている。また江戸時代から伝わる「なすび」の形をした茄子団扇、機械、木工製品や機械工具など地元でも知られていないが製品が数多くある。それら地場産業の掘り起こしと、伊勢木綿の手織り体験や木工品手作り教室、小女子の生産から加工までの見学など今注目されている産業観光に繋がる地場産業の見直しが必要である。



#### < 具 体 策 >

- ・津にある食名物開発
- ・新しい食名物開発
- ・食マップの作製
- ・産業観光的なものの掘り起こし  
伊勢木綿の機織り、小女子の漁から加工まで  
体験教室の開講

## (4) 歴史や文化人に対する認識と基本的な考え方に教育徹底

### 1. 津市の歴史や人物、文化などの情報発信

歴史や文化においては素敵な名所史跡や人物が多く存在する。残念なことにそれらが存在することを多くの市民は知らないといっても過言ではない。史跡や名所では津城址、北畠神社、恵日山観音寺、高田本山専修寺、結城神社の梅、三多気の桜、津偕楽公園等。人材では、藤堂高虎、お奈津の方、また来年のNHK大河ドラマになった江、谷川清士、実業家でもあり芸術家でもあった川喜田半泥子、絵画家奥田竹石等が上げられる。また、農業工学の創始者、上野英三郎は忠犬ハチ公の飼い主として、有名である。このように歴史的なものや人が居たことをもっと市民に伝えるべく運動を呼びかけるのも産業界の仕事で、実際に詳しく教えていくのは教育機関かも知れない。

### 2. 商売の原点を見つめ直すための講習や講座を開設

商業関係に目を転じると、これは大変。商店街は深刻な状況。何をやっても盛り上がらない状況。これらの原因は、商店街を形成する店主の多くは、居宅を商店街以外の地区に持ち、商売という経済活動だけを行いにやってくる。(少しでも早く)帰らなければならないから閉店時間が早いのは当たり前。夜誰も住んでいないゴースタウンには誰もやって来ない。飲み屋さんや飲食店が良くないのも元々そこに住んでいた人が離れたことも原因のひとつ。もう立ち直すことはないかも知れない、と言っている訳にはいかない。今こそ商工会議所が店主達に呼び掛け、もう一度原点回帰を考えるべきではないか。

### 3. 心のこもったおもてなし商売の提案

多くの商店街やその中で組織される組合が行政から補助金や助成金を取るための道具になっていると同時にまず金の体質を改善することは忘れてはならない。〇〇資金、〇〇補助金、〇〇助成金を商店街が本当に一から自分たちで施策や事業を考え、費用対効果も十分認識し、本当にお客様が喜ぶかどうかを考えた上で資金調達を考えるなら良いが、行政の担当者がこのような資金があるからいかかと言われ、最高限度はいくらまで出るとか聞きながら心が入った施策や事業を考えないまま金取りに走る。このような最悪のパターンは何とか回避し、より有効的な補助金・助成金の活用の仕方を商工会議所で助言する。新たな商業界のコンセプトと「心の通ったおもてなしの商店街」が戻ってきた時、来ない来ないと言っている三重大学生や三重短期大学生が江戸橋を渡り、そして周辺のまちからもドンドン人や物がやってくる。

### 4. 津市から他の地域へ情報発信出来る人材の育成と活躍のフィールドを探し紹介する

最後に、住む人の気質は、温暖な気候と共に人間も温厚である。外へ向っての発信は苦手であるが、それは行ったことがないからである。基本的に温厚で優しい人間性だが、逆にいえばどこへ行っても好かれる人間といえる。情報の発信の仕方をきちんと教えればポテンシャルの高い人材が沢山存在する。



## <具 体 策>

- ・わかりやすい連続歴史講座
  - 高虎ってどんな人？
  - 江って誰の娘？
  - 奈津ってどんな人？
  - 観音さんって1300歳なの？
- ・わかりやすい文化人講座
  - 半泥子と魯山人どちらがいいの？
  - [和訓の葉]ってどんな本？
  - 津から出た有名な人は？
- ・津市観光検定
- ・商売の原点を見つめ直す講座
  - 商売人は店に住もう！

## (5) 市内の小学生・中学生が期待していること

### 1. 環境や人にやさしいまち

- ① 環境にやさしいまち・環境と共存できるまち  
・みんなが木・花を植えるまち、公園のあるまち、川、海がきれいなまち、ポイ捨てやゴミのないまちなど
- ② バリアフリー・ユニバーサルデザインのまち
- ③ 風力発電と太陽光発電の多いまち
- ④ 電柱のない景観の良いまち
- ⑤ 公共トイレがきれいなまち
- ⑥ 地球温暖化を考えるまち
- ⑦ 自然が多くエコカーが走るまち

### 2. 楽しめるまち

- ① イベントや祭りなどが多いまち
- ② 津ぎょうざ・しろもち君、キャラクターなど津を有名にするものがあるまち
- ③ 東京の109や原宿のようなまち
- ④ 観光客が来るまち
- ⑤ シンボルになるタワーがあるまち
- ⑥ 伝統ある建物、古い街並みがあるまち
- ⑦ 昔の大門商店街のような活気ある商店街があるまち
- ⑧ 県庁所在地らしいまち

### 3. 働きやすいまち

- ① 津に多くの産業があるまち
- ② 働く場所が多いまち
- ③ 就職率の高いまち

### 4. 安心・安全で暮しやすいまち

- ① 子供が安心して暮らせるまち、いじめのない学校やまち
- ② お年寄りや体の不自由な方に優しいまち
- ③ 老後が安心して暮らせる豊かなまち
- ④ 設備の整った病院があるまち
- ⑤ 税金の無駄遣いがない清いまち

### 5. 学校・教育に対して

- ① 学校の設備をよくしてほしい。(例えば教室や体育館エアコンの設置など)
- ② 校舎にスロープをつけてほしい(障がい者の人のために)
- ③ 通学路を安全にしてほしい



- ④ 津ぎょうざを学校給食にしてほしい
- ⑤ 高校を義務教育にしてほしい



### <具 体 策>

- ① アイデアなどが提案できるコンテスト等の実施
  - ・わが家（わが社）のエコ運動、エコ自慢コンテスト
  - ・津市のキャラクター（しろもち君、ゴーちゃん）似顔絵コンテスト
  - ・ここにあるよ！ユニバーサルデザイン見つけたコンテスト
  - ・安心、安全な街、提案コンテスト
- ② アイデアや事例の情報発信
  - ・各商店街、百貨店、各ショッピングセンター等にて展示
  - ・アイデア事例の紹介、周知、啓発活動

## (6) 商工会議所の基盤強化

### 1. 組織体制基盤

中期ビジョンを実現化していくために、商工会議所の委員会にて検討・計画・立案を行う。

- ① 委員会組織の改組。(平成23年度～平成28年度)  
青年部・女性会・会員の意見、協力要請を行うため、委員会に参画する。
- ② 各委員会毎、年次計画を立て、検討・研究、実施、検証などP D C A (「Plan (計画)、Do (実施)、Check (点検)、Action (是正処置)」を明確にする。
- ③ 役員・議員が先導し、現状の業務をスクラップなども検討する。

### 2. 財政基盤

会員企業の定着と拡大

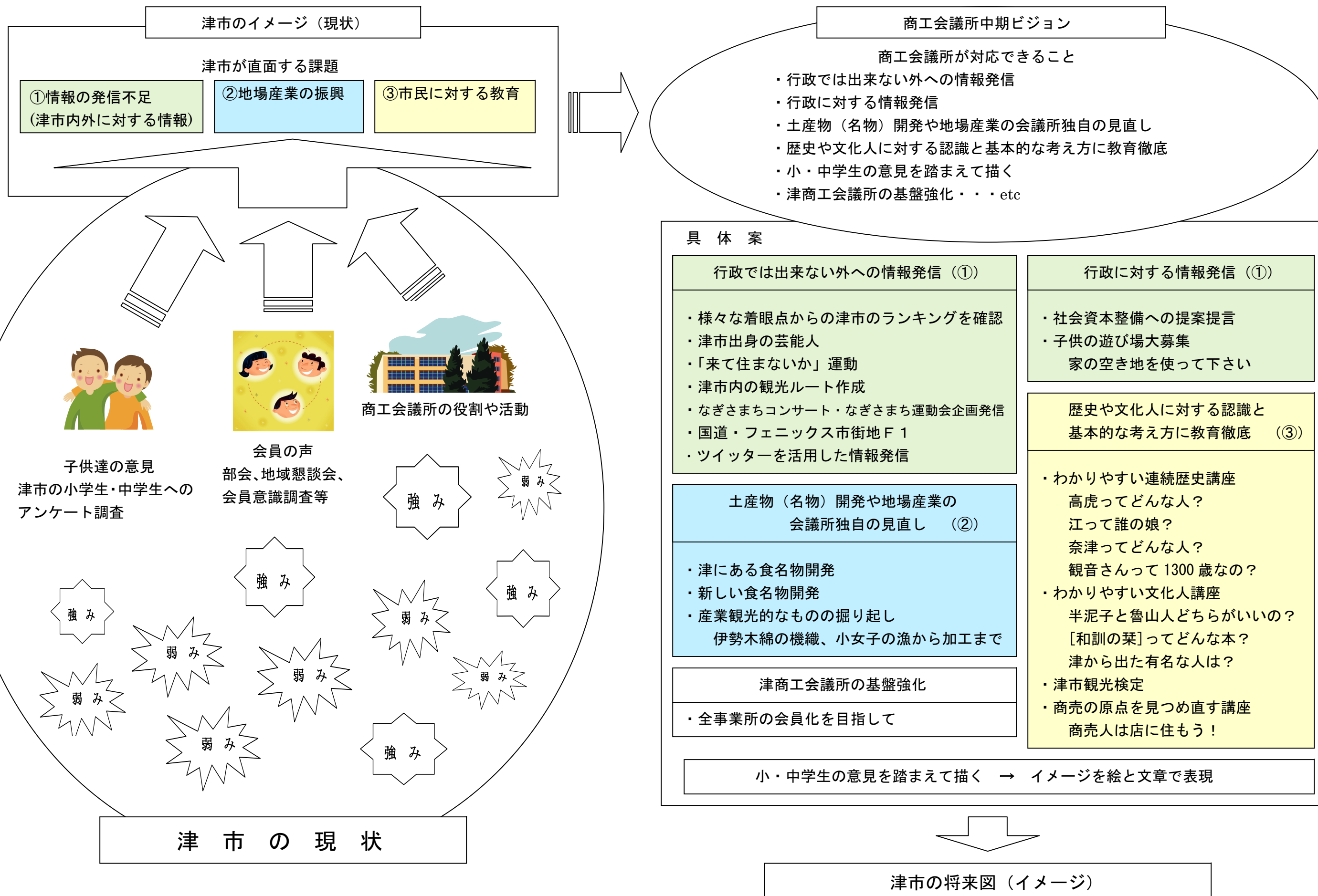
- ① 会員企業との接点やコミュニケーションを増やす  
「フェイス to フェイス」が基本
- ② 会員の満足度を向上し、商工会議所の価値観、存在感を高める
- ③ 当たり前のことを当たり前とせず、「おもてなしの心」「サービスの心」「感謝の心」で会員企業と接する。



### <具 体 策>

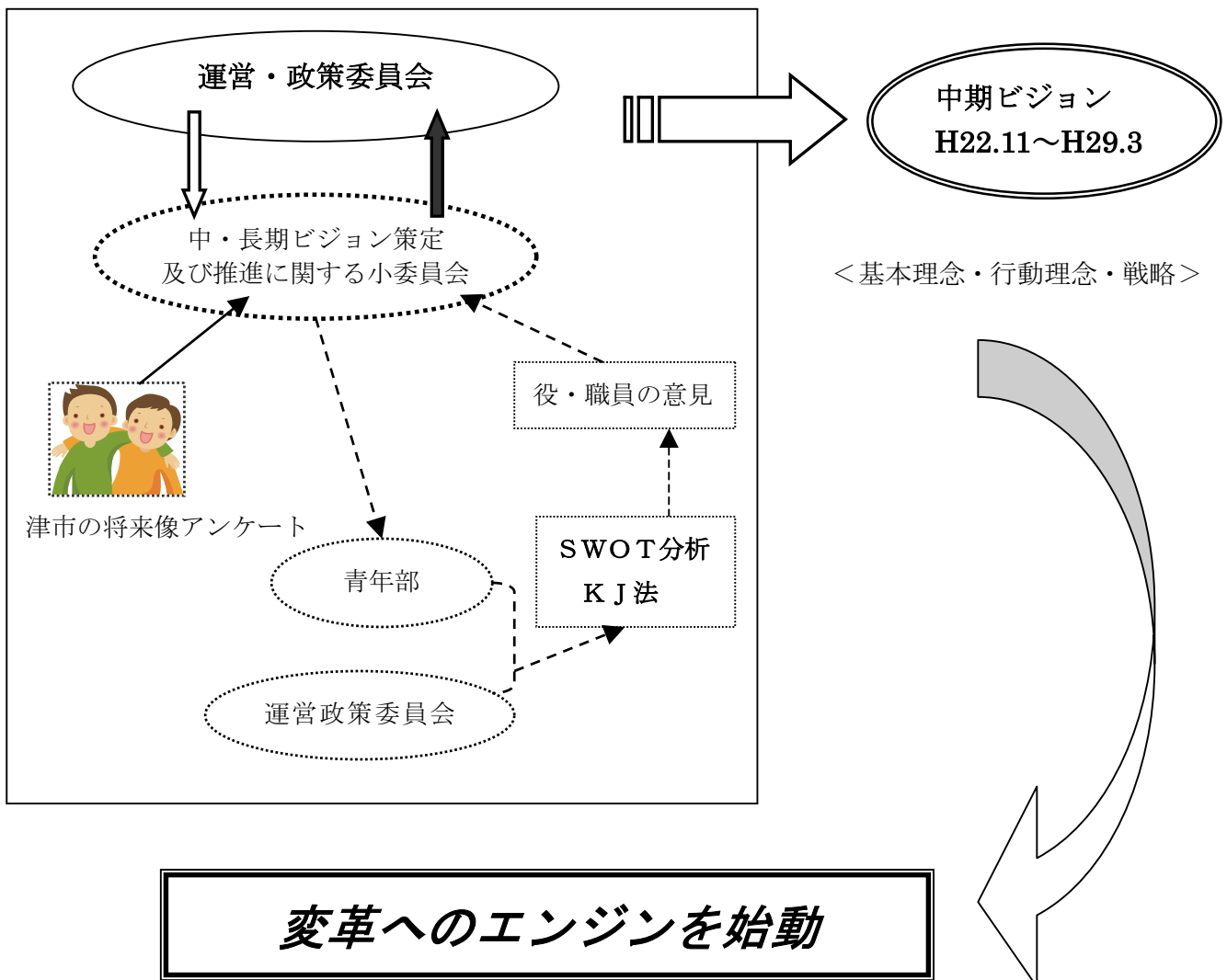
- ① 事務は効率化、会員企業（人與人）とは非効率化。  
会員企業との要件は、郵送、電話、メールなどで行なうことでも、出来る限り会員企業へ出向き、接点を増やす（フェイス to フェイス）
- ② 「こんにちは運動」と新会員紹介  
訪問企業で、近所や同業者を紹介いただき、全事業所の会員化を目指す

## Ⅷ 商工会議所中期ビジョンの骨子とイメージについて



## Ⅸ 中期ビジョンの策定にあたって

- ・ 目的／ 津商工会議所は6年後までに目指すべき姿を描き、その実現に向けた基本ビジョンを策定する。
- ・ 策定体制／ 運営政策委員会「中・長期ビジョン策定及び推進に関する小委員会」において、ビジョン策定にあたっての検討や、議員総会に上程するまでの作業を行った。
- ・ 策定手法／ ビジョン策定にあたっては、まとめようもない多様な事実をありのままに捉え、それを構造的に組み立てる事により、なにか新しい意味を発見する「創造の技法」であるKJ法と強み、弱み、機会、脅威を判定することで課題を導くSWOT分析を用いて「運営政策委員会委員」「津商工会議所青年部」の協力を得、実施した。  
 KJ法、SWOT分析については三重大学名誉教授 渡邊 明氏のアドバイスを受けながら策定を進めた。  
 また、津市の将来を担う市内小学6年生・中学3年生を対象に、津市の将来のイメージ・どのような姿を望むのか、についての調査をアンケート方式で実施した。



<中・長期ビジョンの策定及び推進に関する小委員会の開催状況>

| 開催日              | 検討事項  | 検討事項を踏まえた取り組み  |
|------------------|---|--|
| 第1回<br>H20.7.24  | ・中・長期ビジョンの策定について  | ・平成17年の津・久居商工会議所の合併時に作成した「新商工会議所活性化ビジョン」の概要と現状を基にビジョンの策定について協議した。<br>・地域の商工業者を先導して行く、実施可能な会議所のビジョンを策定する。   |
| 第2回<br>H20.10.22 | ・講演会：日本商工会議所 総務部主査 谷脇茂樹氏<br>「商工会議所 中期行動計画について」  | ・中心市街地活性化、まちづくり3法、行政・商工会等の連携、地域資源・ジャパンプランド、日本の観光の成功事例等について質問、意見交換を行なった。  |
| 第3回<br>H21.4.21  | ・「KJ法とSWOT分析について」<br>三重大学名誉教授 渡邊 明氏<br>・中・長期ビジョンの策定について   | ・当小委員会が所属する「運営・政策委員会」及び「青年部」の方を交えてKJ法によりとりまとめ、SWOT分析により、津市の「強み・弱み」について分析を行なった。（※出席者はP19に記載）  |
| 第4回<br>H21.6.22  | ・提案方法の取りまとめ<br>・アンケート調査の実施について<br>・今後のスケジュールについて  | ・津市の「強み・弱み」のデータから問題となる部分を設定し、良い面・悪い面のアイテムの整理を行なった。<br>・津市の将来像について市内小学6年生・中学3年生を対象に、将来の津市のイメージ・どのような姿を望むかの調査をアンケート方式で実施することを決定した。<br>(※調査期間 平成21年7月10日～9月1日 調査結果については参考資料5を参照)  |
| 第5回<br>H22.1.19  | ・市内小・中学生アンケート調査結果について<br>・今後のビジョン策定について<br>・今後のスケジュールについて   | ・小・中学生のアンケート結果、環境問題、いじめ、津の名物・名産、安心安全なまち、バリアフリー・ユニバーサルデザインのまち・イベントが多いまち等将来の津市に夢を持ち住みやすいまちを期待している姿が見られた。アンケート結果をビジョン策定に取り入れていくこととした。<br>・「運営・政策委員会」「商工会議所職員」に対し、第3回小委員会で実施したKJ法の「弱みとしての認識」について意見を聞き、当商工会議所が取り組むべき方針や役割あるいは方向性などについてコンセプト（概念）を現していくこととした。 |
| 第6回<br>H22.2.26  | ・小・中学生のアンケート調査報告書の作成について<br>・津市の弱みとしての認識について<br>・中・長期ビジョンの骨子について  | ・小・中学生のアンケート調査の結果を報告書としてまとめ、協力いただいた教育委員会、各小・中学校をはじめ、常議員会で報告し、役員・議員に配布した。<br>・議員、職員からの「弱みとしての認識」の回答をまとめた『いろいろな意見から考えられる「津のまち」イメージ』を基に今後の問題点の改善方法の検討を行なった。   |
| 第7回<br>H22.3.26  | ・「津のまち」のイメージに対する意見について<br>・中・長期ビジョン骨子について<br>中・長期ビジョン骨子<br>中・長期ビジョン「弱みとしての認識」<br>・中・長期ビジョンに必要とされる内容について | ・津のまちイメージから何をすべきか<br>「恵まれた住環境を他地域に情報発信」「社会基盤整備の充実」「歴史教育や人物の情報発信」「商売の原点の講習会や講座の開設」「既設施設の利用の提案提言」「津市の食資源の豊富さを内外に発信」「名物・銘菓の全国発信」「人材育成」についての協議・検討をし、骨子作成の基としていくこととした。  |
| 第8回<br>H22.4.28  | ・商工会議所中期ビジョンのイメージについて<br>・中・長期ビジョンに必要とされる項目と内容について<br>・今後の進め方について                                       | ・「商工会議所中期ビジョンのイメージについて」フローチャートを作成し、「津市のイメージ（現状）から津商工会議所中期ビジョン「商工会議所が対応できること」の具体案を検討した。<br>・中長期ビジョンに必要とされる項目と内容については、「ビジョンの位置付け」また、「会員の現状」について平成20年度会員意識調査の結果から、従来の会議所の考え方と今後の基本的な考え方を検討した。   |
| 第9回<br>H22.6.4   | ・中期ビジョンの策定について<br>・今後の進め方について   | ・他の小委員会との連携を図り実現に向けた方策について検討した。<br>・ビジョンを早期に実現するため委員会の改組、委員会名の検討を行なった。   |
| 第10回<br>H22.7.1  | ・中期ビジョンの原案の策定について<br>・ビジョンを実現化するための組織・体制について<br>・今後の進め方について   | ・中期ビジョンの「位置付け」「策定の背景」「津のまちの現状」「津のまちのイメージ」「津市の直面する課題」「今後の会議所の基本的な考え方」「会議所が対応すべき事と具体策」「中期のビジョンのイメージ」の検討を行い、原案をとりまとめた。<br>・中期ビジョンを実現化するための組織体制について検討を行なった。  |
| 第11回<br>H22.9.22 | ・中期ビジョン報告書の作成について   | ・中期ビジョン報告書の作成と作成部数、配布先について検討を行なった。   |

## 4月21日 第3回 「KJ法とSWOT分析」出席者

(企業五十音順・敬称略)

講師 三重大学名誉教授 渡邊 明 氏

運営・政策委員会 委員長 飯田 俊司 (株)百五銀行 取締役会長

### <会員大会・記念式典等に関する小委員会>

|    |      |         |       |   |
|----|------|---------|-------|---|
| 委員 | 宮上史郎 | (株)エスパ  | 代表取締役 |   |
| 〃  | 森 良徳 | 森清工業(有) | 専務取締役 | ※ |

### <地域知財の活用に関する小委員会>

|     |      |            |         |  |
|-----|------|------------|---------|--|
| 委員長 | 三浦義秀 | 共立印刷(株)    | 代表取締役   |  |
| 委員  | 原田陽介 | 原田土地開発(株)  | 代表取締役会長 |  |
| 〃   | 岩井純朗 | 三重日産自動車(株) | 代表取締役社長 |  |

### <会員サービスに関する小委員会>

|    |      |           |         |   |
|----|------|-----------|---------|---|
| 委員 | 池田彰公 | (株)アイケーディ | 代表取締役会長 |   |
| 〃  | 井阪彬祐 | (株)榊原白雲荘  | 代表取締役   |   |
| 〃  | 刀根大士 | (株)刀根菓子館  | 代表取締役社長 |   |
| 〃  | 森 良徳 | 森清工業(有)   | 専務取締役   | ※ |

### <中・長期ビジョンの策定及び推進に関する小委員会>

|     |       |         |         |  |
|-----|-------|---------|---------|--|
| 委員長 | 辻 正敏  | (株)辻工務店 | 代表取締役社長 |  |
| 委員  | 亀井加一郎 | 亀井機工(株) | 代表取締役社長 |  |
| 〃   | 田辺三郎  | 田辺設備(株) | 代表取締役   |  |
| 〃   | 田村欣也  | 日本土建(株) | 代表取締役   |  |

### <津商工会議所青年部>

|      |       |              |        |   |
|------|-------|--------------|--------|---|
| 会長   | 森 良徳  | 森清工業(有)      | 専務取締役  | ※ |
| 直前会長 | 加瀬久照  | (有)中央電設      | 代表取締役  |   |
| 副会長  | 舟橋秀樹  | (有)舟橋明樂園     | 営業部長   |   |
| 専務理事 | 河合孝浩  | (株)津スポーツセンター | 取締役副社長 |   |
| 理事   | 安田篤徳  | 三重中央農業協同組合   | 金融部長   |   |
| 副委員長 | 中垣内良紀 | (株)丸中産業      | 専務取締役  |   |

※印は重複

### <事務局>

|              |      |
|--------------|------|
| 専務理事         | 山口 修 |
| 常務理事         | 藤谷増郎 |
| 理事・事務局長      | 前田泰明 |
| 中小企業相談<br>所長 | 寺尾隆洋 |
| 総務課長         | 塚沢正樹 |
| 久居支所長        | 岩崎仁人 |
| 企画課長         | 伊藤研也 |
| 企画課          | 若松雅徳 |
| 中小企業相談所      | 中岡朱実 |

運営・政策委員会

「中・長期ビジョン策定推進に関する小委員会」委員名簿

|             |        |                    |
|-------------|--------|--------------------|
| 運営・政策委員会委員長 | 飯田 俊司  | (株)百五銀行 相談役        |
| アドバイザー      | 渡邊 明   | 三重大学名誉教授           |
| 小委員会 委員長    | 辻 正敏   | (株)辻工務店 代表取締役社長    |
| 委員          | 亀井 加一郎 | 亀井機工(株) 代表取締役社長    |
| 〃           | 田辺 三郎  | 田辺設備(株) 代表取締役      |
| 〃           | 田村 欣也  | 日本土建(株) 代表取締役      |
| 〃           | 鯉江 盈   | (株)白牡丹 代表取締役       |
| 〃           | 川喜田 久  | 三重トヨペット(株) 代表取締役社長 |
| 〃           | 林 昭久   | 三重リコピー販売(株) 代表取締役  |

# 参 考 資 料

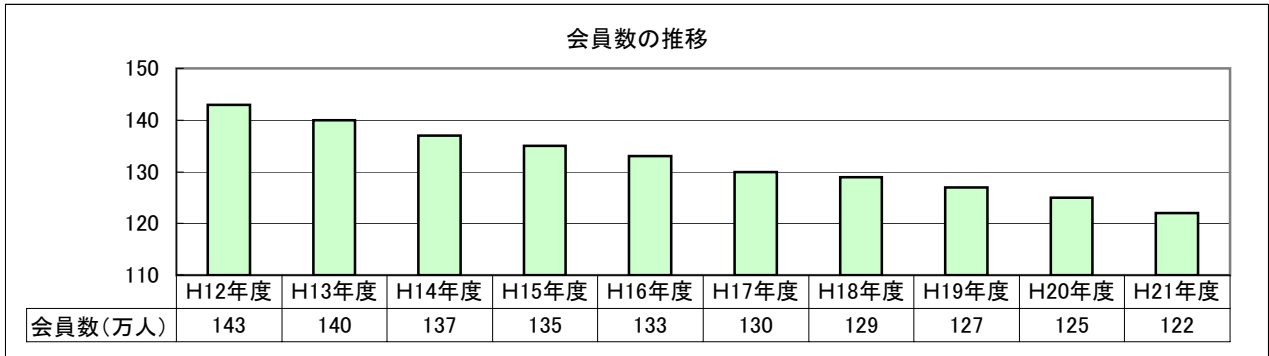
|                            |    |
|----------------------------|----|
| 1. 事業所数の減少、会員数の減少の現状       | 1  |
| 2. 津市の強み・弱みから考えられる弱みとしての認識 | 2  |
| 3. 「弱みとして認識」した各項目の課題に対する意見 | 3  |
| 4. 現状からみた「津のまち」のイメージに対する意見 | 33 |
| 5. 市内小中学生からのアンケート調査結果      | 39 |



# 1. 事業所数の減少、会員数の減少の現状

## ・全国の商工会議所会員数

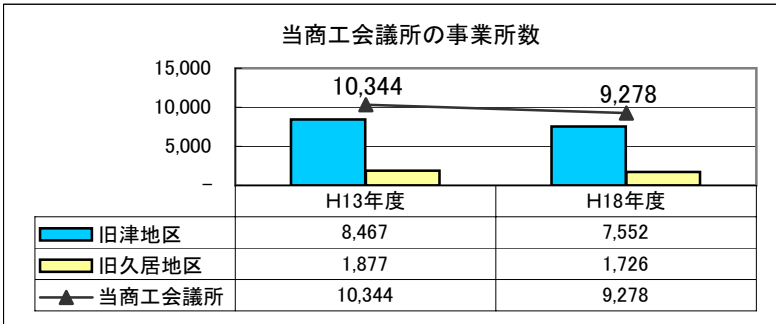
平成12年:143万人 → 平成21年:122万人(21万人減少:9年連続)



## ・当商工会議所事業所数

旧津地区 平成13年度:8,467事業所 → 平成18年度:7,552事業所(915事業所減少)

旧久居地区 平成13年度:1,877事業所 → 平成18年度:1,726事業所(151事業所減少)

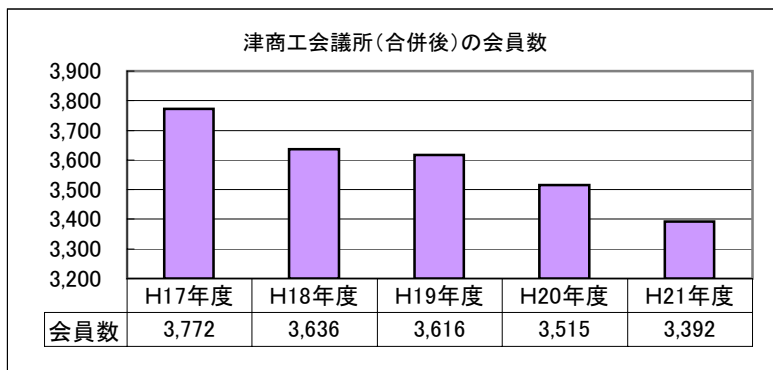
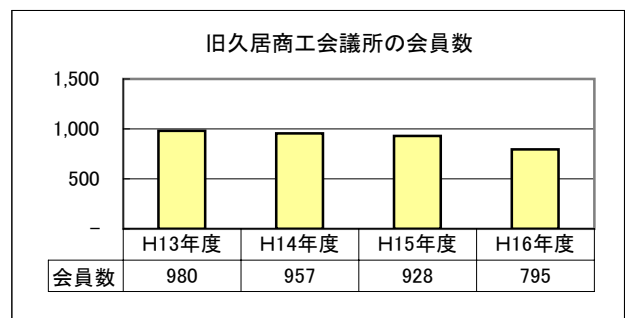
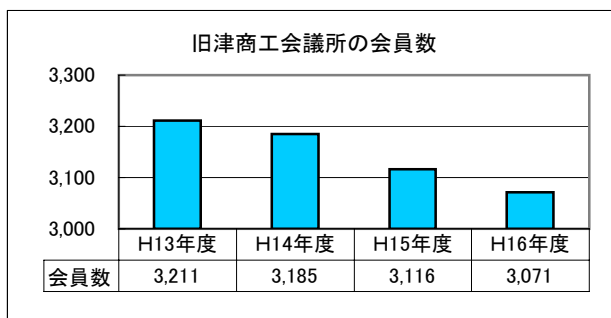


## ・当商工会議所会員数

旧津商工会議所 平成13年度:3,211会員 → 平成16年度:3,071会員(140会員減少)

旧久居商工会議所 平成13年度:980会員 → 平成16年度:795会員(185会員減少)

津商工会議所(合併後) 平成17年度:3,772会員 → 平成21年度:3,392会員(380会員減少)



商工会議所の会員数の減少は、事業所数の減少という構造的要因と長引く景気の低迷の中、事業所の廃業や統合などが大きな原因となっている。

## 2. 津市の強み・弱みから考えられる弱みとして認識

津商工会議所運営・政策委員会委員ならびに津商工会議所青年部役員、津商工会議所役職員よりKJ法やSWOT分析を用いた手法により津市の強み・弱みをまとめた内容から考えられる「弱みとして認識」を次の項目で整理し、コンセプトをはじめ各項目の具体的な課題を示したものです。

- コンセプト  
問題認識を書く
- 都市整備基盤・都市力向上の課題
  - ・ こどもの遊び場がない
  - ・ 海の活用がない
  - ・ 合併後の交流がない
  - ・ 交通事故死亡者が多い
- まちづくりの向上の課題
  - ・ シャッター街が多い
  - ・ 中心市街地が広範
  - ・ 夜がさびしい
  - ・ 買い物が不便
  - ・ 駅の周辺がさびしい
- 観光資源の整備発掘育成の課題
  - ・ 特徴がない
  - ・ 名物がない
  - ・ 観光スポットが少ない（色々あるが連帯感がない）
  - ・ 歴史があるのに活用しない
- 中小企業創造育成・企業活力の創出の課題
  - ・ 成長業種の集積がなく就業機会が少ない
  - ・ 若い人が戻ってこない
- 津市の中長期ビジョンに関する意見具申

### 3. 「弱みとして認識」した各項目の課題に対する意見

津商工会議所中・長期ビジョンの策定および推進に関する小委員会委員ならびに津商工会議所役職員が、「弱みとしての認識」した各項目の課題に対する意見をまとめたものです。

※ ページ下部に描かれているイラストは、市内小中学生アンケートから抜粋したものを掲載しています。

なお、基本的に原文のまま記載しています。

#### ○コンセプト

|  |
|--|
| ・津市内の経済活性化、中心市街地の活性化、観光開発等津市の課題を市民と共有して解決し存在価値のある津商工会議所になる                             |
| ・ユニークな中規模事業所の振興で、明るい夢のある町 美味しい町 お年寄りが住み良い町 夢と希望の山間部                                    |
| ・津市の将来を皆で考え、住み良く文化の香り高い街づくりの指針となりうるビジョンを考える。   |
| ・明るい津市、住み良い津市、魅力的な津市に！！  |
| ・芸・文・学を高め自然と共生できる県都  |
| ・津市を愛するひとづくり   |
| ・海と山が融合し、自然と人に優しい、住みやすさナンバー1の都市  |
| ・明るい人にやさしい街づくり   |
| ・会員のみならず地域住民に必要とされる会議所づくり。   |
| ・地域の商工業者への経営革新を促進することで、それら商工業者の経営基盤の充実と事業承継を実現し、地域産業の活性化を図ることで就業の機会の創出や市民生活の向上への貢献を図る。 |
| ・B級グルメ   |
| ・会員との絆が地域企業を伸ばします。   |
| ・単なる都市化や利便性を追い求めるのではなく、残すべきものは資産として後世に残す。  |
| ・市民及び商工業者が活気に溢れ、楽しく暮らせる街にしてみたい。  |
| ・景気回復以外に何も無い。  |
| ・中小企業から「信頼される」「愛され親しまれる」経済団体→「経済団体のリーダーとして」「存在感のある」経済団体                                |

## ○都市整備基盤・都市力向上の課題

### <こどもの遊び場がない>

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・サイエンスシティにある駐車場付きの大規模な公園を旧津市南部、旧久居市の子供を対象に津市神戸町あたりの山林地帯に、又旧一志郡は白山町あたりに設置。それと共に市内各所にある小公園を整備する。</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・大型店企業に依頼するなど改善する。</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・体育館、球場、学校のグラウンド等を開放、サイクリングコースを作る。祭りに大道芸を呼ぶ。</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・津市内は多いと思う。親がその場所と活用を知らない為自治体で案内しては？</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・公園等で遊ぶ子供たちが少ない。活用していないと思う。</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・①広いこと ②芝生 ③ペットは入れない（周辺に別に作る）等、安全・安心に子供を遊ばせる空間を作る</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・公園等の整備はあるが、子供の目から見て魅力がないからではないか？<br/>魅力がある→大人（老人も含め）も付き添って出るようになる→地域が活性化される</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・グラウンドや広場はあると思うが、規制が多いためそこで子供が自由に遊べる環境が疎外されてきている。まずは自由に遊べる環境をつくる。また、四日市の緑地公園や松阪の中部台公園など街の中心にあるとランドマーク的存在になり人も集まると思う。</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・意外と市内各地域にある大型公園には休日に人が集まっている。海・山が近いことから、遊具等が沢山ある大規模な「アスレチック公園」、「海岸公園」などの施設の建設。</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・新たな公園設備の設置は難しいかと思うが、既存設備の整備とともに商店街の空き店舗・空きスペース等に簡易遊具を設置する等により子供も楽しめる商店街にしてはどうでしょうか。</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・この場合の「遊び場」はどのようなものを指すのでしょうか。外で遊ぶなら公園はそれなりにあるだろうし、カラオケやゲームセンターも、買い物する場所もある程度あるかと思いません。<br/>テーマパーク等は土地の確保と誘致ができるかどうかですが。</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・まずは現状の把握から、子どもの遊び場マップを作成（内容は、公園、幼児も気楽に連れて行ける外食できるお店、室内で遊べる場所等）で女性の視線でのマップ。嫁いできて地元以外（市外）の女性も多くマップがあると助かる。現状の把握ができれば、公園の整備等で住民側にたち会議所として行政に提言できる。子どもを遊ばせれる充実した町になれば、住む人だけでなく遊びに来る市外の人が増える。あのつ台にある公園や亀山サービスエリアにある公園を見ると休日、駐車場が満車になるぐらい盛況だ。</li></ul> |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・松阪中部台公園のような施設整備。市街地からも近く、お金も掛けずに遊べる場所</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・今の子どもは家の中でゲームばかりで遊んでおり、外で遊ぶことの楽しさを伝えるしくみが必要だと思う。自宅近くに子ども同士で行ける公園や広場が必要である。</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・市内に遊園地などはないが海があるのでなにか活用出来るよう考えるといいと思う。</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・公園はあるので・・・ 管理の問題（草等）、遊具の問題、 但し、塾等で子供たちが遊ぶ時間が無い。外での遊び方を知らない、外で遊ぶのは危険という意識があるなどの「外で遊ぶ」ことに対する根本的な問題があるような気がする。</li></ul>   |

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・海も山もある。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近子供が屋外で元気に遊ぶ姿があまり見られず、公園・広場が活用されていない。⇔遊具等の整備がされていない。⇒親子・孫との公園等の利用が増えれば交流の場となり、地域の活性化にもつながるのではないか？</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び場がないというより、遊ぶ環境ではない。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園とか十分あると思います。遊びの施設がないってことですか？</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び場とは？観光客向け？<br/>歴史、物産、自然等を体験できるような施設があれば良いと思う。<br/>(例：モクモク手作りファームのような施設や、お菓子作り・工芸品作り等の体験工房施設)</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・公園があっても、子供が遊んでいるのをあまり見かけませんが、ある公園では、地元の方が清掃作業をしたり、お年寄りから子供が常に公園を利用しているので、皆が顔見知りになり、大人の目が常にあるので、子供達は安心して遊んでいます。仕事をリタイアした人達の地域への協力が必要だと思います。</li> </ul>                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの遊び場とはどういうものでしょうか、公園はたくさんあるし、学校のグラウンド等でも遊べる。今の子どもがどういう遊びを求めているのか、携帯ゲームをしたいということであれば無料で貸し出せる公共の場を作っていくような現代っ子にあわせた施設を考えていく。</li> </ul>                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な人工物がおかれた公園を造成するのではなく、子供の想像力に期待し、ただの広場をつくり、ビオトープ、大きな木、土管、丸太など遊びの素材となるものだけの空き地をつくる。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧津市行政は津球場などの箱物建造物に対して、積極的に整備維持をしてこなかったと思います。箱物を創れば創っただけで後の改装など、ほとんど行わない体質があります。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の遊び場とは、どの様なものを注しているのか分らない。<br/>テーマパーク的な物であれば、経済の活性化に繋がるので良いと思うが、経営的には難しい。公園などの遊び場はいらないと思う、今時の子供は外では遊んでいない公園を作っても管理費などに経費がいる。</li> </ul>                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋上の緑化で場所を確保。自然を活用したイベントの開催。お年寄りから子供に遊び方（昔の遊び）を教わる。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに少ないと思うが本当に必要性があるのか、もっと調査するべきだと思う。やみくもに作っても税金の無駄に繋がるのでは</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び場が少ないという感覚はあまりない、むしろ公園で野球やサッカーが出来るようにすればどこにでもあると思うし、小さい子などに危ないというのであれば逆に遊具付近にネットで囲えば良い。<br/>テーマパークを指すのであれば、鈴鹿サーキット・長島スパランドなど他の市に比べれば比較的近隣にテーマパークがあると思う。</li> </ul> |



<海の活用がない>

|  |
|--|
| ・活用方法を他所見学   |
| ・ヨットハーバー なぎさまち 海の家潮干狩等で、活用されて居るのでは？  |
| ・御殿場に駐車スペースが少ない、競艇場の開放、オートキャンプ場、サイクリングコース、ビーチバレー   |
| ・港、海水浴、津ボート等はあるが、一体感がなくスポットとしての役割に欠ける。阿漕から御殿場海岸の整備、食べ歩きが出来る飲食街としての誘致をしては？  |
| ・白砂青松を残し、きれいにすれば人が集まる。   |
| ・①常に砂浜にゴミがないこと ②親子で遊べる施設・場所をつくる  |
| ・もっと、PRして津の海のおよさを知ってもらう<br>イベントやそれに伴ったPRで、津の海のおよさを知ってもらう事から始める。  |
| ・花火大会、ビーチバレー、ヨットハーバー、潮干狩り、海水浴など他地域と比べて、海は十分活用されていると思う。ゴミや荒地などを無くし、きれいな海岸を創生したい。ベンチや小公園などをつくり若者がデートスポットになるような景観の良い場所を造り、人が集まる仕掛けをつくれば良いと思う…。                    |
| ・砂浜を利用した大規模海岸公園・展望台の建設。  |
| ・なぎさまち、ヨットハーバー等現状でもある程度活用はされており、インフラとしてのこれ以上の活用は難しいのではないかとすれば釣り場の設置位しか思いつきません。   |
| ・夏はビーチバレーやサンドアートなど、今もイベントをいくつかしていると思うので、そういった夏らしいイベントで利用するとか、海の幸や食べ物に関するイベントを時々浜辺で開催する等。   |
| ・海が目的の若者の多くは三重まで来ると伊勢志摩に行く。魚介類が目的の中高年も伊勢志摩に行く。しかし、潮干狩りでは勝てる。関西方面の人にターゲットを絞り大きなPR作戦の実施。また、会議所のたて干しの参加状況をみると好評であることから、地元住民が現在より利用しやすい環境づくりと、海に来やすいきっかけ作りが必要だと思う。 |
| ・御殿場海岸は潮干狩りやたて干しで多くの方が訪れることから、ヨットハーバーやアクセス港でもそれに併せた集客イベントの開催など、またJFEの堤防に行くと週末は大勢の釣り客がいる(市外や県外からも)、海釣り公園のような設備があれば。(今の状況ではテトラポットで危険、安全な場所ではない)                  |
| ・津市の海は、伊勢志摩の海に比べると見劣りする面が多く、ソフト面とハード面の両面からの整備が必要である。中京地区は京阪神から近いことを強みとして、伊勢志摩の海と違った魅力でアピールが必要である。例えばマテ貝捕りやマテ貝の名物料理などでの集客を図る。                                   |
| ・市内に遊園地などはないが海があるのでなにか活用出来るよう考えるといいと思う。  |
| ・秋・冬の活用方法の検討。(富山県のホタルイカ漁見学等)   |
| ・子供の遊び場として活用。たて干し、潮干狩(アサリ・バカ貝・マテ貝)等豊富な資源と認識。   |
| ・臨海学校・キャンプの設備設置  |
| ・海岸沿いにサイクリング・散歩ができるように道路の整備をする。  |
| ・堤防があるだけで、整備されていないので、いてもつまらない。店もない。  |

- ・なぎさまち周辺にお店が少なすぎです。あそこに若い人向けのお店があったらいいのと思います。
- ・潮干狩りの時期には県外から多くの観光客が来ているのでそれは良いと思う。釣りもできるし漁港もあるので、その近くにさかな市場のようなものがあれば釣り客以外の人も訪れるかも。
- ・釣り場の整備を考える。日本鋼管、なぎさまち、阿漕浦、ヨットハーバー等での釣り以外にも安全に釣れる波止場の整備。
- ・今の津の海のにぎわいは夏期に限定されている。年間を通じて、海への誘客をふやすため津の海や川の生物を展示する水族館を中心にし、動植物園（例：岐阜アクアト）のような施設を設置する。
- ・なぎさまちとマリーナが岩田川で分断されており、近鉄道路まで戻らないと移動できない。人の移動だけでよいので、岩田川河口に人口橋（できれば吊り橋）を設置し、両施設で人の移動ができるようにする。
- ・やはりこれも、活用すべき施設の建設をおろそかにしています。津市は津という港でありますから、河芸のマリーナのように整備された、港が必要であります。
- ・釣り公園などを市営で経営すれば、県外・市外からも釣り客・家族連れが訪れ活性化に繋がる。
- ・広くPRするのでなく海に隣接していない県に絞ってPRや優待をする。
- ・アクセスの整備。海周辺に、飲食店を増やす。あたりまえの事が出来ていない。
- ・海水浴場は、伊勢や鳥羽に比べて、無料の駐車場が少なく（無い）金銭的に不便なので、無料駐車場の設置。浦村牡蠣や鳥羽の漁協みたいに、牡蠣・貝や海老の食べ放題イベントを定期的に行い、観光客などに印象付けを行っていったらどうか。  
河芸マリーナや四日市みたいにジェットの降ろす場所が無いので、そういう場所を作りマリンスポーツを楽しむ人を呼ぶ事が出来れば、もっと賑わうのではないかな。

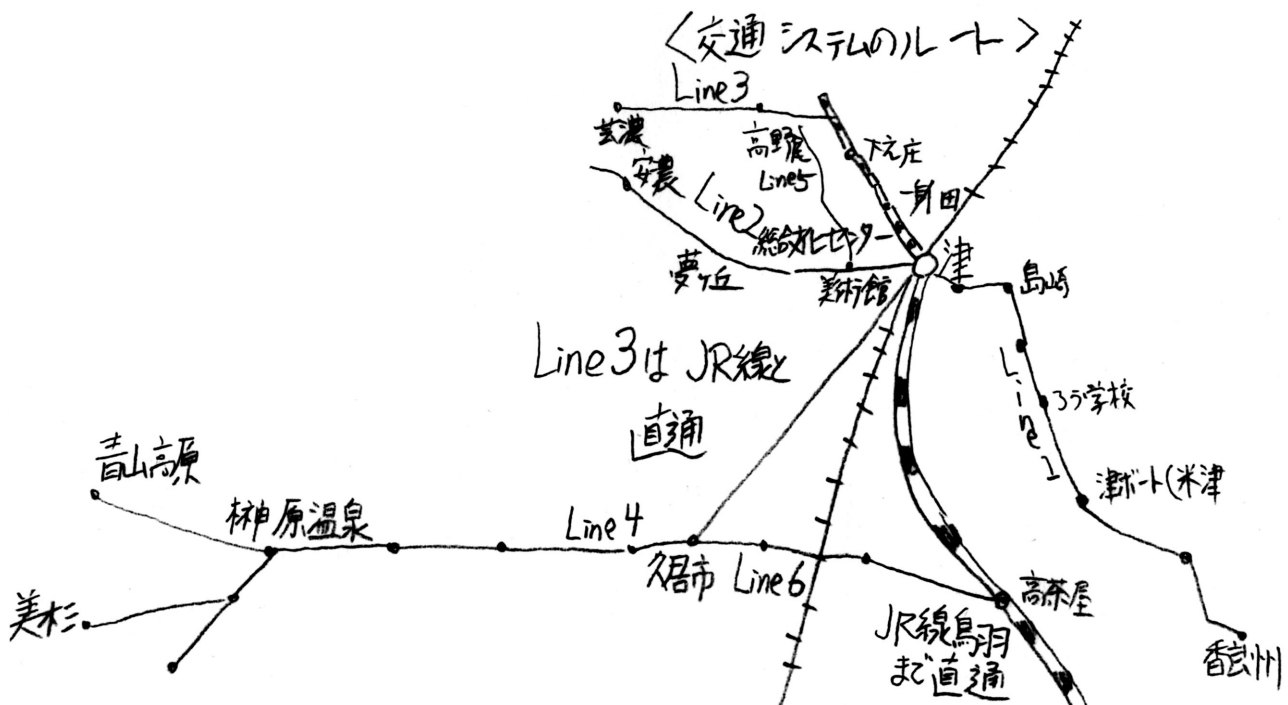


<合併後の交流がない>

|   |
|---|
| ・ 先ず道路網を整備（理想は河芸町から美杉町まで 40 分くらい）して一体感の醸成。  |
| ・ 個人的な交流を促す。イベント情報の発信 ケーブルテレビの配信  |
| ・ 連帯意識を高める。文化事業を増やす。昔の事を言う（島国根性）  |
| ・ シンポジウムを各地で開催し、それぞれの地区・地域の特色を出し合い交流の場から新しいものの発見をしては！！  |
| ・ 効果的なイベント等ないでしょうか  |
| ・ 各地域から何名かで、各々の地域を紹介するイベントを行い、お互いの地域情報を知ること<br>で、その輪を広げていく。   |
| ・ 合併前は、交流があったのか？  |
| ・ 平成 18 年 1 月 2 市 8 町村が合併し、5 年が経過しようとしているが、早く新市の一体感を創<br>生していかなくてはいけない。そこで、津市は江戸時代から城下町として、また、古くは海<br>上交易の港町として賑わいを見せており、伊勢街道や初瀬街道など 6 つの街道が通じた。ま<br>た全国から情報が集まる地域であったことから、この 6 つの街道を活用し、津城を出発点に<br>した街道別マラソン大会や駅伝大会などを開催し、旧久居や安濃、芸濃、美杉などを線で結<br>び、それを面に変えていくしかけを作っていく。 |
| ・ 互いの地域を理解する為の交流会・意見交換会の実施。   |
| ・ 市域が広大になったものの、住民の生活行動圏が変化したわけでは無いので簡単には交流が<br>活発になるとは思えないが、行政等も含め積極的な交流推進を図る必要があると思います。  |
| ・ もともと頻繁に行き来の無かった町村が合併したからといって、すぐに交流は増えないと思<br>う。物産市等イベントを広く全域に呼びかけたり、その際に人が行き来しやすいように交通<br>の便を整え、またそれを広く周知して利用してもらうようにする。合併後の津市の交流につ<br>いて考えるなら、会議所は何か事業する場合に管内である旧津市・旧久居市だけで実施せず、<br>それ以外の地域にも働きかける方法を考えるべきかと思う。  |
| ・ 交流が十分だとは思わないが、不足しているとも思わないので対策も意見もない。関係ない<br>かもしれないが、昨年実施した元気セール（主催：津商連、久居商連、会議所、商工会）は<br>久居では好評だった。  |
| ・ 商工会議所の性格として、商工会議所の地域内の商工業者等を対象としていることから、津<br>市内の商工会地区との交流は難しい面がある。  |
| ・ 交流はあると思う。   |
| ・ そうは思わない（部会やセミナーの参加など）が「ふれあいフェスタ」等会員が一体感を感<br>じることのできるイベントの開催は必要。但し、現在の会議所エリアと行政エリアが違うの<br>でどこまで交流をするかの判断が難しく中途半端な状態にある感がある。   |
| ・ もともと交流はある。  |
| ・ 市町村合併後 4 年が経過し「合併後の交流がない」と思われていることがまだ本当の意味で<br>の「合併」になっていないように思う。広範囲の合併だけに交流は難しいと思うが、連帯感<br>が高まるようなイベント・物産展等を各地で開催する。<br>広範囲になってはいるが、交通が寸断されていて移動に不便なのも原因では   |
| ・ 特にありません。  |



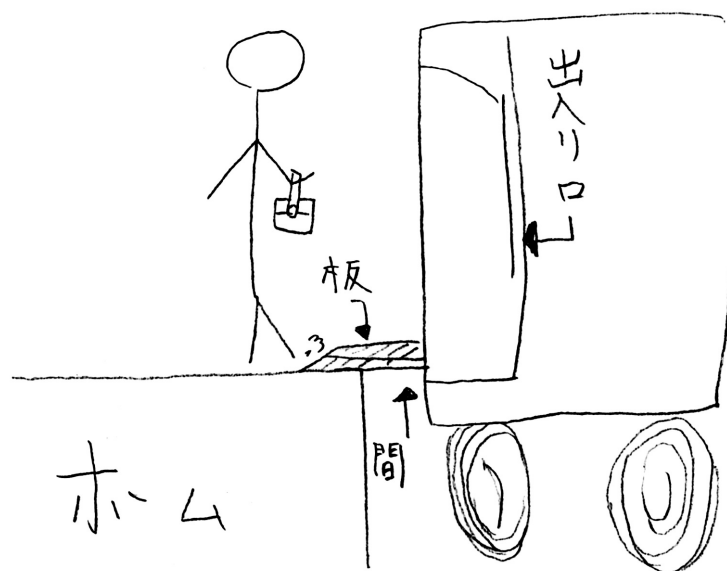
- ・津市全体の行事（津市民マラソンとか）があるといいのでは。
- ・こういった交流を求めているのか分からない。
- ・交流を図っても参加しなかったり、参加しても合併前のメンバーで固まったりと、旧連帯感が強い感じがします。
- ・2市8町村が合併しており、それぞれの地区の独自の文化があり、あまり急がずに地道に交流を進めなければならない。
- ・観光資源の整備発掘育成におなじ。
- ・交流が有り無しは実態が判らないから、回答できません。
- ・地域的な面から見て難しい。
- ・交流の場がないわけではない、旧久居地区で何かをすることがなくなったと思います。久居地区で解決しなければならない諸問題等を話し合う、意見交換する場を設ける。
- ・合併後、数年経過するがいきなり津市が広域となり、市民の実感がないと思う。徐々に交流を図る・・・
- ・交流？と言っている時点で合併していないように感じる。合併したのだから、一つの市ではないのか。その感覚をまず取り除いていったらどうか？



### <交通事故死亡者が多い>

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・中勢バイパスを早期全線開通して、通過車両をまわす。道路網・歩道の整備、街灯を多くして明るい街にする。老人・子供に積極的に啓蒙活動を行う。</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・お年寄りと子供の安全教育</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・他市に比べてどう多いのか分析が必要</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・モラルの向上を図る。特に大人が子供に後姿を見せることによって子供の時から交通ルールを知る（自覚）ことが出来る。</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・自治会など中心となり、高齢者にアドバイスを</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・市内のスピード違反・信号無視の取締強化を長期間行うこと。（車のスピードの流れが全体でゆっくり走る習慣になるまで）</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・高齢者の交通事故防止、交通指導</li><li>・青少年運転者の交通事故防止、交通指導・飲酒運転の追放</li><li>・チャイルドシートおよびシートベルトの着用（子供をひざにのせて、ハンドルを握っているのを見かける）</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・H20年の交通事故死亡者数は、三重県は全国ワースト19位、岐阜県は12位、愛知県は第1位である。また、人口10万人当たりの死亡者(H18年)は、香川県に次いで、三重県はワースト第2位である。このことから、三重県が交通死亡事故者が多いと言えが、そのひとつに中心市街地における国道23号の片側4車線という広さも原因と考える。渋滞はないが、その分国道の広さが逆に自動車の速度を上げることになり、危険を増していると思う。渋滞になるのを承知で片側4車線を2車線にしてその分緑地帯や駐停車場、イベント広場、多目的広場などを造り、東京原宿みたいな街づくりを目指したらどうか。また市内を通過する車は中勢バイパスの完工と湾岸道路を新設する。</li></ul> |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・個人の交通マナー・モラルの問題が第一。学校・親から子供への交通マナー教育の徹底。危険箇所への「死亡事故多発」標識の設置。</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・根本的には交通取締りや事故防止啓発に頼るしかないかと思うが、歩行者が安心して歩ける商店街づくりを考えてはどうか。</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・公共交通機関が都会に比べて本数や駅の数が少なく車が無いと暮らしていけないので、車が多い＝事故が増えるのはある程度仕方ないかと思えます。事故が多い場所に分かりやすく注意を引くような表示や信号等を設置するか、その場所にパトカーや白バイが頻繁に待機するなどすれば、日常的に通る車は注意するようになるのではないのでしょうか。</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・数年前に交通運輸自動車部会が作成し警察にも提言したマップの作成は何年かに1回は作成した方が良くと思う。作成したものを、どこに配付し（小・中・高校、会員企業等）、どう利用してもらうかまで計画すると会議所のPRにも大きく貢献できる。</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・交通運輸自動車部会が中心となり、交通安全への取り組みや広報への協力を行う。</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・高齢者が多いためではないか。</li></ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・交通運輸自動車部会が過去に実施した調査の検証と改善要望の充実。</li></ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・道路事情で仕方ないが、そもそも津市の交通事故死亡者は多いのか？</li></ul>   |

- ・年齢またどのような状況での死亡事故が多いのかを調べ、(交通運輸自動車部会での調査を活かす) 安全教育やイベントを開催する。特に幼児からの安全教育は身につけやすい。(子供は常に大人の姿をみて行動します。)
- ・よくわかりません。
- ・右折レーンが見やすく整備されるなど、道路整備は結構順調のように感じます。交通マナーも津市は比較的良いような印象を受けますが、人それぞれ交通マナーをしっかり守ることが大事ではないかと。
- ・子供・高齢者の交通安全に対する教育を普及・啓蒙する。
- ・交通死亡事故は人口に対して、どれだけ多いのか、具体的な数値が不明である。
- ・国道の中央分離帯の切れ目が多く、事故の基になりがちであり、中央分離帯を封鎖すれば事故は減る。
- ・交通運輸自動車部会の渋滞箇所などの調査がベストプラクティス。パークアンドライドの実証や実験。啓発活動
- ・最近運転に関心がないのか、交通マナーの低下が著しいように感じられる。自分勝手なルールが伝染している。
- ・交通事故が多いのであれば、事故多発エリアに信号機等を設置し改善すればよい。

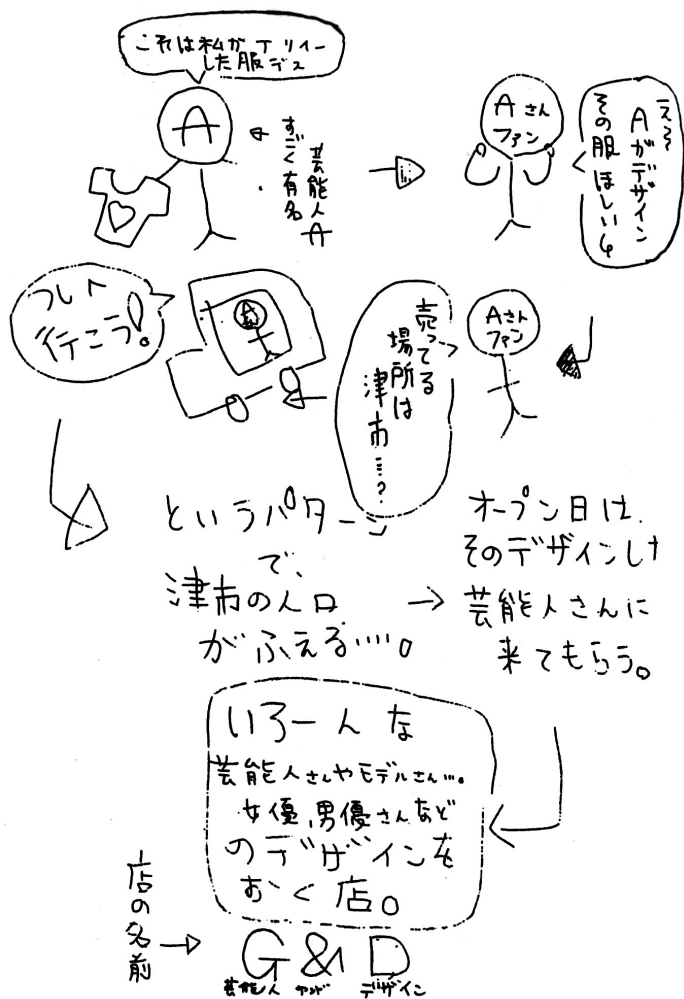


## ○ まちづくりの向上の課題

### <シャッター街が多い>

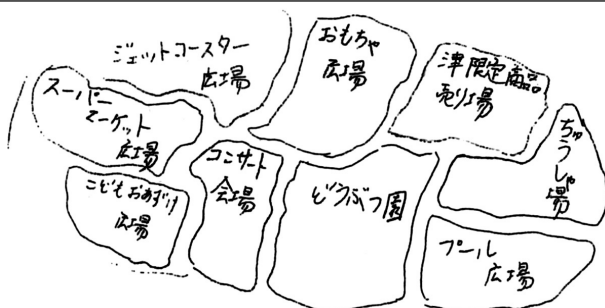
|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕掛け人が現れ、現在津駅東口から羽所町通りにかけては特に夜は活況を呈している。丸之内通りから大門にかけては無料の大駐車場を整備して、仕掛け人が現れアウトレットに近い安売り専門店街にしては</li> </ul>                             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 需給のバランスが取れて居るのでは無いか？</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 閉店時間が早い。空き店舗が目立つ。省エネ、節電の影響、景気も影響</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既に遅い。もっと早く手を打たなければならなかった。商店の方が街を捨てている。街の中に金融企業が多すぎる。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食べ歩きができる商店街、地元の特産品が並ぶ商店街と特徴を持った店で商店街を作る。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 難しい。現状では厳しいが、何か思い切った対策が必要だと思う。シャッター街全体を行政が買い取って、アウトレットモールを作るとか？人がワクワクしながら集まってくる場所・・・若者をいかに取り込んでいけるか？（巻き込めるか）</li> </ul>              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 店舗が閉店、廃業のことだと思うが、例えば地域によって若者の地区、高齢者の地区、カップルの地区、子供の地区、生活者にやさしい地区などコンセプトを持って取り組み、テーマに沿った顧客が街に出るような工夫をする。</li> </ul>                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き店舗を利用した三重特産品の販売、人気専門店やその商店街にない商品を扱う店の誘致。魅力ある商店街にする為には、各個店のやる気・結束の問題もあると思う。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き店舗をまとめて管理する。津まつり等のイベントの日は空きスペースとして申請者に貸し出すとか、普段でも申請すれば一般市民や企業がイベント会場やギャラリー等比較的自由的で利用できるようにする（管理者は必要になりますが…）</li> </ul>             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 跡継ぎがある商店は店主の気合がちがう。会議所としては跡継ぎのある商店の支援強化（現状維持策）と、思い切った街づくり（増改築の支援・道路駐車場の整備等の現状打破策）が必要。</li> </ul>                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き店舗の有効活用 例えば行政（津市）が空き店舗を借上げて新規出店者や郊外からの出店希望者にとって借り易い施策、家賃補助など支援強化が必要。また市内には大学もあり若い人の協力も得ながら大学生に空き店舗を自由に活用させるなどの方法で仕掛け作り。</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各商店が個々の店独自の特色を持つことで、全体として魅力の向上を図ることが必要である。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商店街の人たちが努力し新規店舗の誘致などして活性化を図る。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 街に住む。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国地方都市の特徴</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の経済の事情ではこれが現状と思うが、商店街でどのようにしたら集客できるのか、シャッターを開けられるのかの知恵と工夫と努力が必要と思う。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き店舗の有効活用する方法を考える。店舗の家賃補助をして、一般市民・企業のイベント等に利用してもらおう。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地主への交渉。高松の丸亀商店街のようにコンセプトを持って、必要な店舗しかいれない。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若い人に安い賃料でお店を開いてもらうのが活気づいていいとは思いますが・・・</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き店舗を活用するのも大事だが、まずは商店街にどう人を呼び込むかを考える。商店街ももっと努力するべき。</li> </ul>   |

- ・シャッター街が多くない街の視察。津市とどこがちがうのかを認識する。
- ・商店街の居住することが望まれる。
- ・権利調整による利用地の組み換えにより、業種整理や商売のチャレンジをする人の場を提供してゆく。
- ・シャッター街が多いのは確かに感じています。昔のやり方では商売が成り立たなくなっていて、廃業するしかないのでしょうか。商売以外に何か活用する方法を模索してみても如何でしょうか。
- ・他市を見ても昔ながらの商店街はシャッター街は多く、時代の流れであり仕方ないと思う。思い切って新天地に移ることも一つでは・・・
- ・空き店舗を所有するオーナーの問題。「貸す気」や「やる気」がない者に対策はない。
- ・津市だけの問題ではないのですが、商店街が賑わっていた頃はバスが主な交通手段だったような気がします。今はほとんどがマイカー。市営駐車場の整備が必要。ただ四日市の二の舞にならないように。
- ・シャッターが閉じている所が、もし廃業しているなら、そこをリーズナブルな価格で貸し店舗などにし、新規参入させたら良いと思うが、出展したい企業など少ないと思うので、大学生や主婦の店・地域サークルなどが経営する店舗の募集など、まずは、シャッターが開いているストリートを作る。



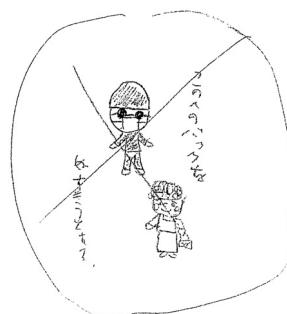
< 中心市街地が広範 >

|   |
|---|
| ・ 高虎さんの時代からのもので悪くは無い?   |
| ・ 地理上仕方ない。交通網の整備を急ぐ   |
| ・ 広域津市を6ブロックに分けて再開発   |
| ・ 多様性があり将来が楽しみである   |
| ・ 食べ歩きができる商店街、地元の特産品が並ぶ商店街と特徴を持った店で商店街を作る。  |
| ・ 都市交通や土地利用を考える   |
| ・ 津の中心市街地は、約 160ha で、他市と比べ広範囲であるが、津駅、丸之内、津新町とそれぞれの地区で特徴を持った街づくりを進めたらどうか。例えば特徴ある品揃えを進める。どこでも買える品ではなくそこでしかないもの、そこでしか買えないものを個店が特徴を出す（従来の逸店逸品の延長）こと、また地域全体の発信力を向上する（携帯電話やインターネット） |
| ・ エリア分け   |
| ・ 広範で何が悪い?  |
| ・ 各街ごとに明確なコンセプトを持たせた街づくり  |
| ・ 中心市街地が広範なのは仕方が無いことであるが、自身でやる気のあるところから活性化の支援をする。   |
| ・ それぞれの商店街にコンセプトを決め特徴をもたせる。<br>例えば：新町通りは「水上マーケット」を中心に若者をターゲットにした商店街づくり等   |
| ・ 合併した以上仕方ない。   |
| ・ それぞれの街で特色を出し（文化圏・教育圏・官庁圏等）利用しやすいようにする。⇒交通網の整理が必要  |
| ・ それぞれ、色をだした市街地を作れば広範囲であろうが、楽しみに変わる。  |
| ・ 合併後の中心市街地が広範ということであれば、中心市街地という名前にとらわれず、逆に津市には中心市街地はないということを掲げ、津市全体が活性化を目指していくようなビジョンを作成する。  |
| ・ 自然発生な商店街なので仕方ない。  |
| ・ 中心市街地と言ってひとくくりの大きな地域で考えるのではなく、個々の小さな店舗が特徴をだすことが原点であり、変化が出てくることが面的なひろがりになると思う。あせらず、個店の魅力作りに傾注する。   |
| ・ 中心街とは言葉だけであり、売上げが上げればどうでも良いのでは・・・   |
| ・ 変えようがない。対策なし  |
| ・ 中心が確かにどこかわからないが、若者が住み良いのは、津市で言えば三重大学周辺地域だと思ふ。   |



## <夜がさびしい>

|   |
|---|
| ・ ニーズと供給がミスマッチ、昼もさびしい。  |
| ・ 景況による。市民交流ができる施設が少ない。   |
| ・ 夜がさびしくても昼間に活気と豊かさがあれば良い。  |
| ・ 静かと思えば住み良い。   |
| ・ 食べ歩きができる商店街、地元の特産品が並ぶ商店街と特徴を持った店で商店街を作る。  |
| ・ 夜よりも、まず昼間とか休日を何とかした方がよいのでは？   |
| ・ 夜がさびしいのは、逆に静かで暮らしやすい街になると思う、防犯などの対策は必要であると思うが、これは弱みとは思わない。ただ大門など一部の地区は歓楽街としてなんらかの線引きをして定めていくことはよいと思う。 |
| ・ 飲食店等の店舗減少。興味が沸く魅力あるいろいろな店舗が少ない。   |
| ・ 深夜も営業するかどうかは経営者の判断なので何とも言えない。(採算も取れない)<br>今のところ深夜も営業している店や遊び場は少ないので出歩く人も少ない→人が少ないから営業しても儲からない、の悪循環    |
| ・ 夜遊びできるような景気ではない。夜のイベントを企画するぐらいが限界？  |
| ・ 娯楽が多様化しており、昔のように歓楽街に若者が集まってくることは難しいと思う。   |
| ・ 商店街に住んでいる人が少なく通勤しているため早く店をしめるのではないか。  |
| ・ たしかに大門周辺はさびしく感じるが、津駅周辺は賑わいがあるように感じる。  |
| ・ 仕方ない。   |
| ・ お店を閉める時間が早く、退社後にゆっくり買い物したり、お茶を飲んでおしゃべりするという楽しみができない。  |
| ・ まれにみない環境であるフェニックス通りを明るくすれば・・・。お店をもっと増やすとか表参道のように、なぎさ町まで艶やかに。  |
| ・ お店の閉店時間を遅くするべき。灯りが少ないので余計寂しく感じる。  |
| ・ 観光に訪れたいと思えるくらいのイルミネーションの街。  |
| ・ 景気が冷え込んでいるので仕方ないが、一日も早い景気の回復が望まれる。  |
| ・ 夜遊びに行くところが、少ないと思います。遊びにいけるような楽しい施設の建設を期待します。  |
| ・ 景気が回復すれば自然とにぎやかになる。   |
| ・ 店の中はにぎやかなところもある。外見から活気があるような場所は歓楽街のイメージ 昼間もさびしいのは変わらない。   |
| ・ 昼もさびしい  |
| ・ 交通手段やレジャー施設がないので、仕方ないと思う。<br>交通手段や24時間のレジャー施設等が増えれば学生やニートである程度は賑わうのでは。                                |



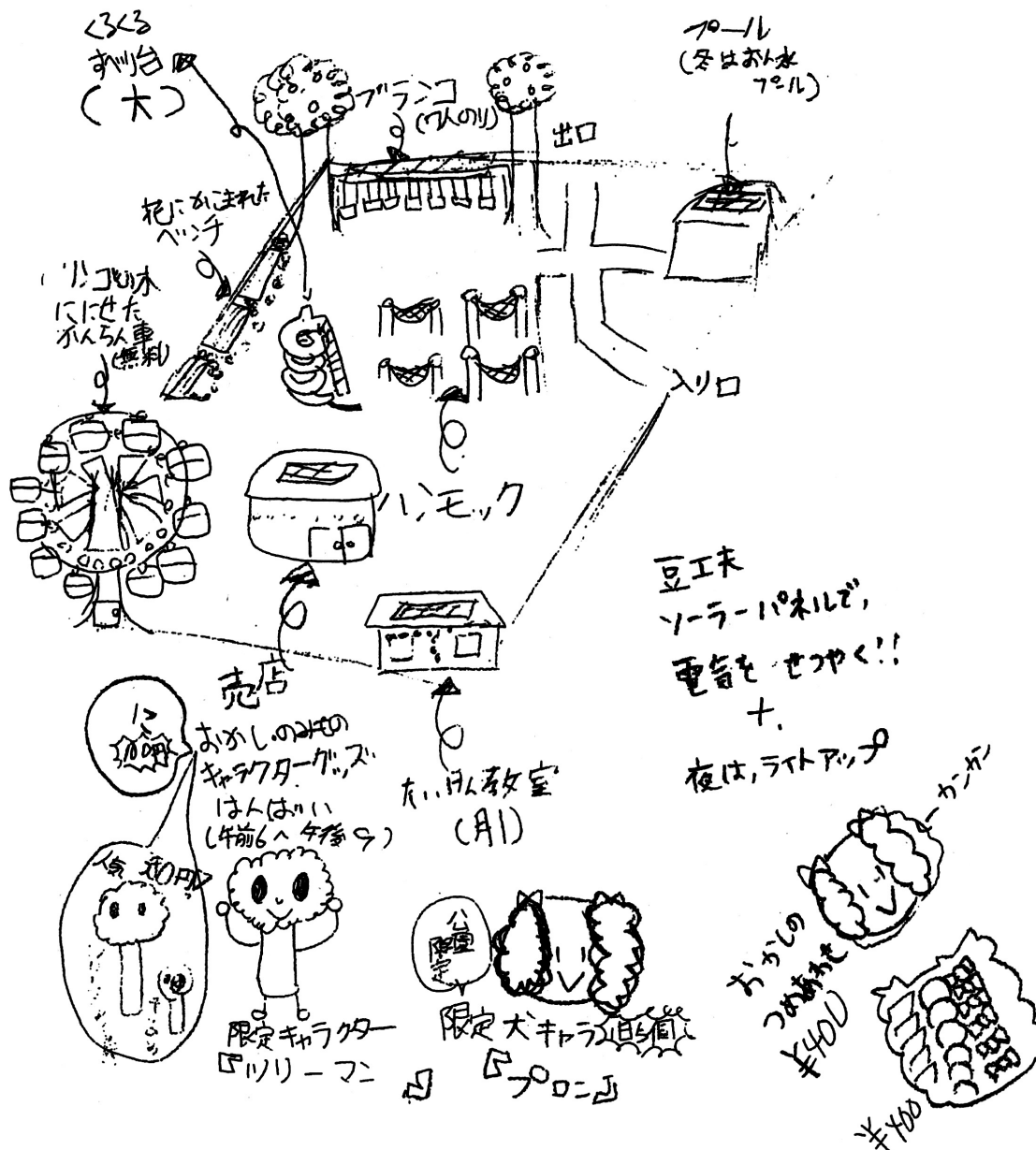
## <買い物不便>

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・津市・警察署の協力を得て、例えばマルヤス等をお願いして、毎日移動スーパーを決まった場所で決まった時間帯に。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・そうは思わないし、理由が分からない。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・大都市に比べて？ 郊外大型店舗に比べ駅周辺はさびしい。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共駐車場が少ない。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の都市と比べて遜色ないと思う。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・一車線（国道23号線）を駐車できるようにする（塔世橋から岩田橋まで）</li> <li>・商店街のアーケード化</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・車が運転できないと不便である。公共交通機関を利用して一度に必要な物を購入する事は、まず不可能である。（一定の場所に、多種類の店舗がそろっていない為）合併しても、隣町までバスが通っていない。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地に店舗がなく、車で郊外にいかないと買い物が出来ないが、地方都市としては仕方ないと思う。中心市街地に特徴のある店舗や居住する人が増えれば店舗も増え、ある程度の買い物も便利になると思う。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・近くに駐車場が無い。お店が集積していない。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通の不便？→駐車場のための土地の確保をしやすくする・公共交通機関の発達。（バスも電車も、都会に比べて本数も、駅の数も少ない。利用人口が少ないので仕方ないが、結果自動車に頼ることになる→中心市街地では駐車場が不足不便、の悪循環）</li> <li>店や商品の種類の少なさ？→地方なのである程度は仕方ない。日常生活で困るほどではない。</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・不便には思えないので…。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地や郊外の団地に住む人にとって不便という観点であれば、生鮮品を扱う店を中心地へ誘致、また郊外からの買物客にはコミュニティバスなどの方法で郊外の各団地と中心市街地を結ぶルート設定</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型店の出店により、身近な小売店が減少傾向であり、小規模な小売店への支援が必要である。車の運転が困難な高齢者への移動販売や宅配サービスの促進が有効ではないかと思う。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心部に駐車場が少ない。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・そうは思わない。逆にインターネット販売等もあるし便利すぎるのでは だから魅力のない商店街には行かない。魅力ある店にはさびれた場所でも人が集まる。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・そうだろうか？</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・車での移動には不便でないが、車を使わなくなった時（高齢者）、今の買い物エリアを考えると不安になる⇒バスの本数を増やす・買った物の宅配サービスをする等買い物に限らず高齢者が外に出やすい環境を整える。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・不便はないが、品揃えがわるい。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物が不便というのは、家からお店までが遠いということですか？？駅やバス停等の近くにお店が少ないのでは。また、お店が広範囲に点在している。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・不便とは思わないが、若者向けのお店がないので買物するものがない。パルコやロフトのような施設があれば良いと思う。</li> </ul>  |



- ・時代の変化により郊外の大型店、駐車場がたくさんある店が強くなりますが、駐車スペースが少なくても本当に買いたい物があれば、そこで買うはず。魅力ある店
- ・中心市街地の活性化、高齢者にやさしい町を目指す。
- ・買い物が不便とは、買い物をすると場所が少ないということですかね、確かに買い物に行っても、品揃えが少ないとは感じます。これは企業努力の問題ですか。
- ・特に不便ではない。どの地域をもって不便と判断するのか分からない。
- ・一概には言えないが、お年寄りの行動範囲であれば郊外化しているので不便。コンパクトシティを目指す。
- ・なにが不便なのか？
- ・大型ショッピングセンターの誘致が一番だが、商店街の活性化と相反する所があるので微妙。個人的には、アウトレットモールなどが欲しい。

## 24時間開いてます!



### <駅の周辺がさびしい>

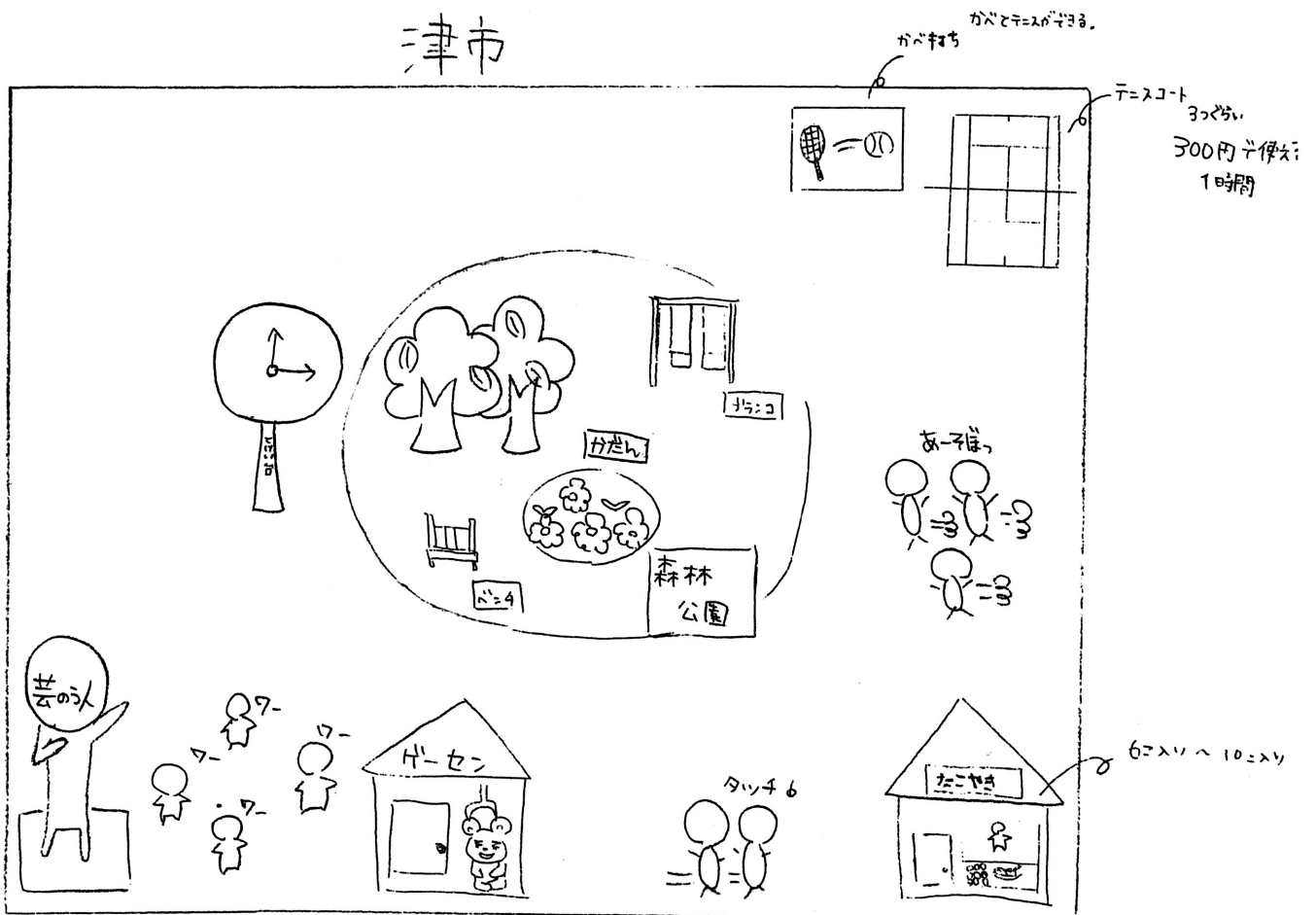
|   |
|---|
| ・津駅東口は羽所町通りにかけて活気が出てきた。西口は駅前再開発を促進した方が良い。久居駅東口周辺は再開発事業で変わると思う。江戸橋駅は三重大学に意見を求める。   |
| ・まずまずでは無いかと思います。  |
| ・大型店の誘致が集まれば良いが、現状無理。百貨店の閉鎖   |
| ・津駅東西の交通網の整備が不可欠。公共トイレのないのも困る。  |
| ・駅周辺再開発等を地公体が考えるべき。   |
| ・居住地区とビジネス地区と混在している状況では大規模ビルや繁華街は出来ない。例えば津駅北側は住居地域であるので、昼夜は閑静な住宅街を望む。街の構成を思い切っかえないと解決しないと思う。一定の地区をオフィス街や歓楽街に意図的に変えないと難しい。 |
| ・興味が沸く魅力ある多種のお店が少ない。  |
| ・特にそうは思わない。   |
| ・近鉄との連携で何かイベントを毎週か毎月実施する・・・。  |
| ・飲酒運転の規制が強化されてから津駅周辺には飲食店が集まってきており、新しい飲食店の集積地域として整備すれば相乗効果がありにぎやかになると思う。  |
| ・津駅周辺は活性化してきたように思うが、津新町駅周辺・新町通りがさびしい。官公庁等を当てにせず地域住民・商店街の人が努力するべきである。  |
| ・津駅周辺は飲食店の出店もあるのでは、人が増えればさびしさは感じなくなる。駅を利用する乗降客の取り込み   |
| ・津駅周辺はそうとは言えない。   |
| ・津駅周辺は最近賑やかになっている。駅が近いという条件を活かし津新町周辺・久居駅周辺も街全体で活性化を考える事が必要  |
| ・中心市街地と同じで、コンセプトを持ち、店舗構成をしないと、統一感がない。   |
| ・どこの駅か分からない・・・。津駅周辺は最近、店が増えてきていると思う。結局、色々な店が近くに集まっていないと賑やかにはならないと思う。  |
| ・以前に比べれば、津駅周辺は明るくなったように感じます。  |
| ・津駅周辺は飲食店を中心に徐々に栄えてきている感があります。  |
| ・津駅が活性化を呈してきており、そんなにさびしいとは思わない。   |
| ・小さな土地の権利整理により、土地の確保。希望業種の集団化できる場を提供する。   |
| ・津駅・津新町駅周辺には人が集まるところが少ない。したがって駅には乗降するだけという目的だけです。名古屋みたいに魅力のあるデパートが必要かも。   |
| ・財布の中身は変わらない、一方がにぎわえば、一方はさびれる。  |
| ・モータリゼーションの発展で仕方がないが、津駅周辺の界隈は飲食店は活気がある。   |
| ・津駅と津新町駅があるからどうして分散してしまう。また、丸の内が少し離れている。  |
| ・週末だけでも 駅前でイベント（ダンス、自転車、路上ライブ等）を開催し、露店なども数件出ていれば、いずれ活性化につながると思う。  |

## ○ 観光資源の整備発掘育成の課題

### <特徴がない>

|   |
|---|
| ・ 津城址に天守閣   |
| ・ 県庁所在地で周辺からは、中心的な町である。   |
| ・ ご当地名物をヒットさせる。モデルコースをもっと作る。マップを作る。(総)  |
| ・ 津市は観光都市としての機能に乏しい。だから名物・名所があっても育たない現状がある。   |
| ・ 気候は温暖、海・山の幸に恵まれおいしい。住み易いのが特徴なら、それをコンセプトにした街づくりを考えれば良い。(老人ホーム、介護施設をつくり人を集める)   |
| ・ 自然がたくさんある。  |
| ・ 全国から足を運ぶような観光地はない、エージェン트가目をひくような史跡や場所もない。しかし地元で知る人ぞ知る場所や食べ物もあり、県庁所在地という地を活かして、着地型の観光を目指し充実させていくべきだと思う。例えばビジネスマンが1~2時間、時間があるので、見て食べて回れる仕掛けづくりをいくつかのテーマに分けて作っていく。   |
| ・ 正直言って自分でもそう思います。歴史に関するものは多少あるとしても、若い世代の人を呼び寄せる観光資源はあまり無いように感じます。藤堂高虎も大河ドラマにならなければ魅力としては弱いと思うし、どれくらいの規模で観光客を呼び寄せたいのかも考慮しつつ、まったく新しい観光スポットを創り出すことも考えればよいと思います。会議所としては津市に関係あるものこだわりたいですが、内容のすべてを津市にこだわらない方が大勢の人に受け入れられやすいものができるかも…。(他と重複)           |
| ・ 特徴は、あるがPR不足。  |
| ・ 日本三名泉の榊原温泉、日本三大湊の津、日本三大観音の津観音、北畠神社、青山高原の風車、津海岸など多くの観光資源は存在するが、地域の人々にも認識が薄いことから、まず地元を知ってもらうことが大切である。津市以外の伊勢志摩や鈴鹿サーキットなど県内の観光資源とも連携して行くことで底上げが必要である。  |
| ・ 観光をテーマとした地域活性化も必要とは思いますがそれに重きをおくのは、県庁所在地である津地域には難しい感がある。<br>県庁所在地の特性(事務所機能が多い)を生かし(しかし、すでに四日市や名古屋に移転されているのが現在の状況)、空き店舗を使った本社や事務所誘致などを積極的に行い「人(住民)」を増やす対策を検討するべきと考える。観光については「藤堂高虎」「榊原温泉」を2大テーマとした統一制のある事業展開が必要。(さまざまな団体が、ばらばらな活動をしている感がある)(他と重複) |
| ・ 山・川・海・温泉と揃っており、特徴がないとは言えない。食材・歴史・景観等のブランド認定。発信する。   |
| ・ 県庁所在地で海と山に恵まれているという特色を活かし県外に向けてのPRを工夫する。<br>海の幸・山の幸・お米・お肉等が美味しく、気候もよく生活するにはとても快適な条件が揃っています。   |
| ・ 特徴がないと嘆くのではなく、特徴をつくるようにしなければならない。   |

- ・世界一短い地名、うなぎ消費率日本一、台風、雪等自然災害の影響を受けにくい為、非常にすごしやすい。
- ・「食(たべる。たべもの)」は人が出かける要素として大きいと思う。津市は広域化しており「地域色ある食のメニュー」開発を中心に置き、特徴、名物、歴史、観光スポットを枝のように広げて行く。(他と重複)
- ・風車・榊原温泉のPRに一本化する。(他と重複)
- ・それを言ってしまうえば終わり。
- ・各市の観光地には、その市その市の役割があると思う。津市を観光地として活かすのは困難ではないか。
- ・海があるのも、山があるのも三重県で津市だけではないので中々難しいが、せつかくあるのだから、海と何かをコラボさせて三重県では津市にしかない独自イベントを作って継続していくべき。(他県の真似をしても良いと思う)(他と重複)



<名物がない>

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・シャッター街が多い対策・意見と関連して、朝日屋の肉・うなぎ・天むす・平治せんべい・津餃子・はんぺん・その他旧久居・旧郡部の名物を販売する店舗。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・海の幸 山の幸 松阪肉 うなぎ 味噌かつ 津餃子 天むす いちご大福 他の名物も多いと思います。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒットしない、打つ手がない、魅力がない。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の商店で努力をし、市民の方々が活用することで市外・県外へと広がる。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・うなぎプラスもう一つほしいです。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元にある物を見直すこと→都会にお土産で持っていくと評判が良い。もっと地元の人が活用すること。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段、長期にわたって人気のあるものが名物ではないのか？そう考えるとたくさんあるのかもしれない。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・名物は、うなぎとか津ぎょうざとか、いちご大福、ブラックカレーなど地元の人なら知っているものが一杯ある。全国的にメジャーになるには、テレビ取材、雑誌などブームになることと思う。ひとつのきっかけでメジャーになる要素は一杯ある、発信力と工夫が必要であると思う。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・名物はあるが、県外・市外へ口コミでひろがらない。PRがうまくされていないのか。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・正直言って自分でもそう思います。歴史に関するものは多少あるとしても、若い世代の人を呼び寄せる観光資源はあまり無いように感じます。藤堂高虎も大河ドラマにならなければ魅力としては弱いと思うし、どれくらいの規模で観光客を呼び寄せたいのかも考慮しつつ、まったく新しい観光スポットを創り出すことも考えればよいと思います。会議所としては津市に関係あるものこだわりたいですが、内容のすべてを津市にこだわらない方が大勢の人に受け入れられやすいものができるかも…。(他と重複)</li> </ul>            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・津まつりでは毎年30万人程度の人出がある、県内でも有数の祭と思うのでうまく活用をすればうなぎ、津ギョーザは今後津の周知をするのに効果的なツール。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・津市発祥の食べ物として、いちご大福、たい焼き、味噌カツ、天むすなどの情報発信の徹底し、その他にも津ぎょうざ、うなぎなどの参加店を増やすことで相乗効果を図り、もっと有名な名物へと育てる。さらに、津市の地域資源を活用した商品への支援体制の構築も必要である。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光をテーマとした地域活性化も必要とは思いますがそれに重きをおくのは、県庁所在地である津地域には難しい感がある。<br/>県庁所在地の特性（事務所機能が多い）を生かし（しかし、すでに四日市や名古屋に移転されているのが現在の状況）、空き店舗を使った本社や事務所誘致などを積極的に行い「人（住民）」を増やす対策を検討するべきと考える。観光については「藤堂高虎」「榊原温泉」を2大テーマとした統一制のある事業展開が必要。（さまざまな団体が、ばらばらな活動をしている感がある）(他と重複)</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランドもあれもこれもでは薄れるので、いっそのことB級グルメで勝負をかける？</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・津市が発祥といわれる「いちご大福」「天むす」「鯛焼き」など他県の方が有名になっている場合もあり、PRの仕方を考える。地元の人が自分たちの街の「名物」をまず好きになることからはじまると思います。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・名物を自信もっておもてにださないから、そのように思うだけであってないことはないです。</li> </ul>   |

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・うなぎを推しているけど、名古屋のイメージが強い。けど名物というには市内にたくさんお店がないといけないし、市民に広く浸透してないとあかんし・・・新しく作って定着させるのが・・・地道に・・・。</li> </ul>                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・津ぎょうざやうなぎ、シロモチくん等をもっとPRする。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・天むす、鯛焼き、いちご大福、発祥の地といわれるものの、PRが下手なのか、全国的には知られていない。「津ぎょうざ」などは全国的なテレビ放送での紹介もあり、知られているのでは。</li> </ul>                        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・名物がないのではない。今後PR活動を積極的に行う。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「食（たべる。たべもの）」は人が出かける要素として大きいと思う。津市は広域化しており「地域色ある食のメニュー」開発を中心に置き、特徴、名物、歴史、観光スポットを枝のように広げて行く。（他と重複）</li> </ul>             |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・うマップを全国に発進しPRする。利益を被る店舗は全て会員に入ってもらおう。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・なければ新たに創りあげる。但し、他市もB級グルメなどを開発しているので、後発は厳しいか</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「食」については、全国に誇れる物がたくさん有ると思う。ただ、PRが地味。「美し国三重」の中心地と言うことで日本の味覚「原点の街」であると思う。</li> </ul>                                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・海があるのも、山があるのも三重県で津市だけではないので中々難しいが、せっかくあるのだから、海と何かをコラボさせて三重県では津市にしかない独自イベントを作って継続していくべき。（他県の真似をしても良いと思う）（他と重複）</li> </ul> |



← 津ギョウザ  
キャラクター

津市にドラエモン



<観光スポットが少ない（色々あるが連帯感がない）>

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・一身田 江戸橋 閻魔堂周辺 藤枝の町並 君が野ダム 錫上湖 川上八幡 北畠庭園 風力発電 榊原温泉</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・宣伝が下手、リーダーが変わらない、若い（新鮮な）考え方必要</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通アクセスの欠如</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに連帯感が大切、工夫の余地がある</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと検定等で、津市案内人を多数つくること。小学校、中学校、高校で「ふるさと講義」の授業を行うこと。（他と重複）</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的にメジャーな観光スポットはないが、見て回れる場所や季節に応じた観光スポットはいくつかあると思うので、（例えば潮干狩りやたて干、花火大会、結城神社のしだれ梅、借楽公園の桜など）上記とおり仕掛けづくりを行う</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光都市ではないので、観光スポットがあっても意識が薄く、また上手く活用・PRしきれていない部分があると思われる。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・指摘されているように観光スポットは少ないと思うが、「なぎさまち」や「高田本山」「榊原温泉」「青山高原」等の観光スポットはあるので、これらの連携方法を考えたい。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・正直言って自分でもそう思います。歴史に関するものは多少あるとしても、若い世代の人を呼び寄せる観光資源はあまり無いように感じます。藤堂高虎も大河ドラマにならなければ魅力としては弱いと思うし…。</li> <li>どれくらいの規模で観光客を呼び寄せたいのかも考慮しつつ、まったく新しい観光スポットを創り出すことも考えればよいと思います。会議所としては津市に関係あるものこだわりたいですが、内容のすべてを津市にこだわらない方が大勢の人に受け入れられやすいものができるかも…。（他と重複）</li> </ul>                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光スポットは色々有ると思うが、街なかにそれらを示す表示や案内版が無いに等しい、初めて津を訪れた人にも分かる主要な観光スポットを示すものが必要。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・津市が中心となり、各総合支所単位で観光スポットの掘り起しを図り、観光協会や商工会議所、商工会、三重観光局などとも連携し、総合的な観光戦略の構築が必要である。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地はあるが広範囲であるため不便。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光をテーマとした地域活性化も必要とは思いますがそれに重きをおくのは、県庁所在地である津地域には難しい感がある。</li> <li>県庁所在地の特性（事務所機能が多い）を生かし（しかし、すでに四日市や名古屋に移転されているのが現在の状況）、空き店舗を使った本社や事務所誘致などを積極的に行い「人（住民）」を増やす対策を検討するべきと考える。</li> <li>観光については「藤堂高虎」「榊原温泉」を2大テーマとした統一制のある事業展開が必要。（さまざまな団体が、ばらばらな活動をしている感がある）（他と重複）</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・集客（例えばB級グルメ）さえ叶えば連帯できる。（他と重複）</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光する場所は多いと思いますが、PR不足・案内標識が目立たない等観光客が見落とししていると思う。</li> <li>また、藤堂高虎公入府400年・観音寺創設1300年等のイベント行事をきっかけに更にPRをしていく。その価値は十分にある観光スポットだと思います。</li> </ul>  |

- ・スポットが少ないのではなく、それぞれを整備していない。津市に住んでいても聞くことがないところが多い。もっと認識をもつ場が必要。小学校からどんどん学ばせるべき。
- ・観光マップを見るとコースは分かって、その周辺の店情報も少なく何があるのか良く分からないので、観光スポット周辺で協力しあって良いマップを作る。
- ・寺や神社は多いものの、目玉となるべきものがない。合併して広くなった津市をひっくるめて「〇〇のまち」と呼ばれるようなまちづくりを目指す。
- ・PR、情報発信を積極的に行う。
- ・「食（たべる。たべもの）」は人が出かける要素として大きいと思う。津市は広域化しており「地域色ある食のメニュー」開発を中心に置き、特徴、名物、歴史、観光スポットを枝のように広げて行く。（他と重複）
- ・観光に関しては、観るべきスポットは存在すると思いますが、宣伝不足があるのではないでしょうか。
- ・風車・榊原温泉のPRに一本化する。（一極集中）（他と重複）
- ・他市の観光スポットとタイアップする。高速道路無料化で津インターは乗降する頻度が高くなるので中心市街地の活性化に反するが津インター周辺の再開発を考える。やる気のある店主を集める。アウトレットなどを誘致
- ・三重の観光地と言えば、全国的にも伊勢志摩。ここは逆に伊勢志摩へのアクセスサポートに回った方がいいのではないかと。例えばなぎさまちから伊勢志摩へ観光定期便を出すとか、榊原温泉を拠点に松阪・伊勢志摩へのツアーを企画するとか・・・。
- ・海があるのも、山があるのも三重県で津市だけではないので中々難しいが、せっかくあるのだから、海と何かをコラボさせて三重県では津市にしかない独自イベントを作って継続していくべき。（他県の真似をしても良いと思う）（他と重複）

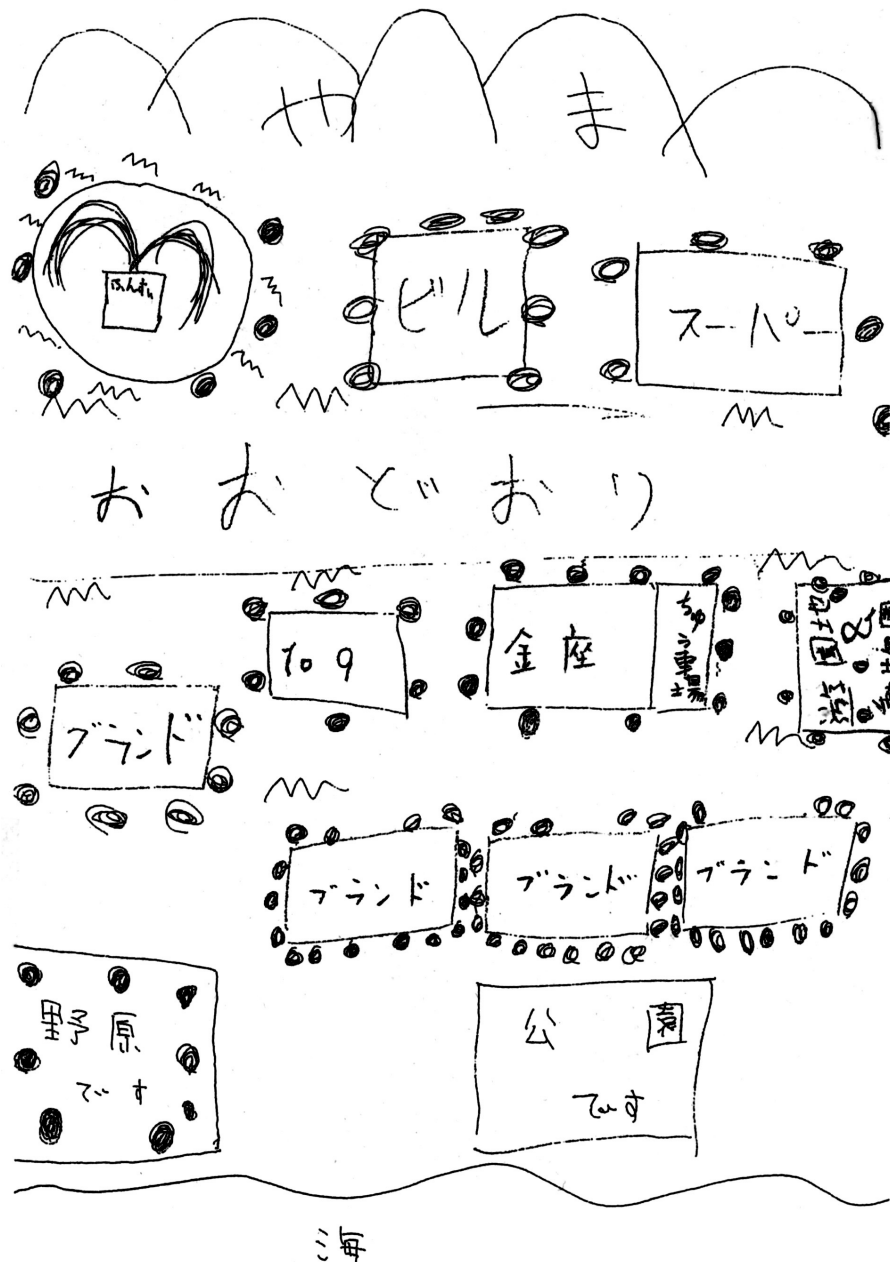




<歴史があるのに活用しない>

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・津城址に天守閣・歴史記念館を併設して（藤堂高虎、江、谷川士清、北畠、津観音、高田本山、その他の資料）を展示して、観光の拠点としそこから各所に。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信と発掘の場として、地域歴史館を作り強力で推進する。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・PR不足</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・津市の歴史を知る、フォーラム、シンポジウム、勉強会（観光や商売に結び付くもの）を開催。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと検定等で、津市案内人を多数つくること。小学校、中学校、高校で「ふるさと講義」の授業を行うこと。（他と重複）</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤堂高虎にとらわれてしまうので、活用しにくいのかも。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・その場所へ行くのご利益がある。運が授かるなど、何か特徴を持たせ、人が集まる工夫と人が流れるような物語をつくる。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光都市で無いので上手く活用しきれていない。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・正直言って自分でもそう思います。歴史に関するものは多少あるとしても、若い世代の人を呼び寄せる観光資源はあまり無いように感じます。藤堂高虎も大河ドラマにならなければ魅力としては弱いと思うし、どれくらいの規模で観光客を呼び寄せたいのかも考慮しつつ、まったく新しい観光スポットを創り出すことも考えればよいと思います。会議所としては津市に関係あるものこだわりたいですが、内容のすべてを津市にこだわらない方が大勢の人に受け入れられやすいものができるかも…。（他と重複）</li> </ul>                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤堂高虎、お江の方、谷川士清、清少納言など地域にゆかりのある歴史上の人物について小中学生の読書感想文課題とすることで市民にもっと知ってもらうことから始める。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光をテーマとした地域活性化も必要とは思いますがそれに重きをおくのは、県庁所在地である津地域には難しい感がある。県庁所在地の特性（事務所機能が多い）を生かし（しかし、すでに四日市や名古屋に移転されているのが現在の状況）、空き店舗を使った本社や事務所誘致などを積極的に行い「人（住民）」を増やす対策を検討するべきと考える。<br/>観光については「藤堂高虎」「榊原温泉」を2大テーマとした統一制のある事業展開が必要。<br/>（さまざまな団体が、ばらばらな活動をしている感がある）（他と重複）</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・集客（例えばB級グルメ）さえ叶えれば活用する気になる。相乗効果（他と重複）</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・市中の道路・街並みが整備され、昔からの地名が変わり寂しい感じがする。街の名前の由来を子供たちに伝えていき、自分たちが育った街をよく知り、愛着を持ち、故郷を大切に思う心を育てたい。一志の山奥の川で貝の化石が採集できる（昔は海だった）など歴史を知ることは大変楽しいことです。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・しないのではなく、わからないのでは。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・谷川士清生誕300年も旗があるだけで、いまいち認識も低い。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近、歴史ブームでもあり、近場でも知らない歴史に出会えるのでPRに力を入れる。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤堂高虎、江、谷川士清など現在のイメージは、地味。全国的な知名度がない。しかし、テレビやマスコミを利用したブームにより、一気に認知があがるケースがあり、継続的なPRが必要ではないかと思われる。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンボルが欲しい。（例）津城など</li> </ul>  |

- ・「食(たべる。たべもの)」は人が出かける要素として大きいと思う。津市は広域化しており「地域色ある食のメニュー」開発を中心に置き、特徴、名物、歴史、観光スポットを枝のように広げて行く。(他と重複)
- ・観光に関しては、観るべきスポットは存在すると思いますが、宣伝不足があるのではないでしょうか。
- ・風車・榊原温泉のPRに一本化する。(一極集中)(他と重複)
- ・NHK大河ドラマ 江に力を入れる。(研究する。) 歴史は相当有名な人物や伝説がないと脚光を浴びない。それなら、ご利益がある場所を作る。(伝説や逸話が必要)
- ・何処の街でも歴史はあるはずですが。でも津市の場合どうしてもイメージが地味です。無理して謳わなくてもよいのでは。
- ・どの地域にも歴史はあるので。歴史館・記念館・キャラクターグッズはよっぽどのインパクトや愛らしさがないと作っても、客足や売り上げは伸びないと思うので歴史に関しては現状で良いと考えている。



## ○ 中小企業創造育成・企業活力の創出の課題

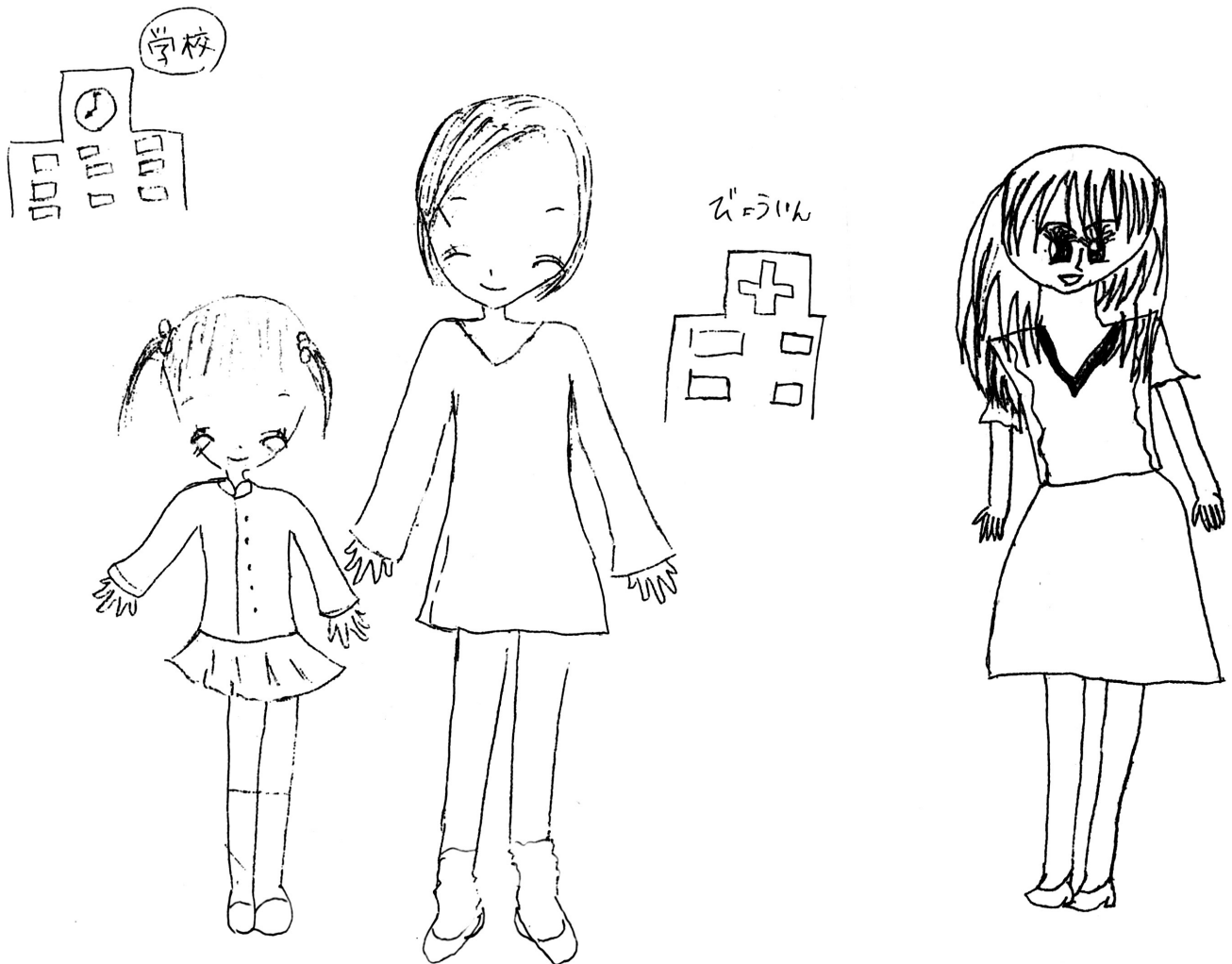
### <成長業種の集積がなく就業機会が少ない>

|   |
|---|
| ・固定資産税等を年数制限して安く、企業誘致、工場誘致を多くする。  |
| ・電気 自動車、関連分野の下請工場はかなり有る。  |
| ・商工会議所の支援、県・市との連携。PR不足。インターネット。HP。  |
| ・企業の立場を理解し、税制等も含め行政に期待。   |
| ・地元の経営者が自分の企業の良さをもっと発信すること。   |
| ・企業誘致を、もっと考えるべき。  |
| ・片田工業団地、森団地、サイエンスシティのような企業集積地区があるので、その近隣へ成長大型企業を誘致し、シャープの「世界の亀山」というような地域のブランドをつくる。例えばパイロットインキなども消えるインキなども世界にはメジャーであると思うので、津をイメージしたものを作り、全国、世界へ発信する。 |
| ・大企業・製造業の誘致。  |
| ・有能な人材を求める企業はあるものの、その企業があまり知られていない場合もあると思うので、企業紹介冊子といったものを作成し、学校や関係施設に配布設置することにより、地元企業を知ってもらう機会を作ってはどうか。(他と重複)                                      |
| ・地方なので都会に比べて就業機会が少ないのは仕方ない。サイエンスシティ等への企業誘致を進めていく等。企業にとって住みやすい(事業所を構えやすい)地域づくりが出来れば。   |
| ・建設業や製造業のように多くの雇用が発生する業種が苦戦しており、成長業種も見当たらないことから難しい。   |
| ・工業誘致にとらわれず、本店、事務所機能の誘致。  |
| ・そのとおり  |
| ・どのような規模の集積を弱みというのか、よくわからない。  |
| ・若者が希望する就職先が少ないので、若い人が戻ってこない、活気が無い、堂々巡り。  |
| ・成長業種の就業機会が少なくても、県庁所在地であるため、公共サービスの就業機会が他市より多く、決して少なくない。  |
| ・企業個々の企業努力により解決するところではあるが、工業団地などでの誘致などで産業集積を期待したいところである。しかし、成長業種である環境ビジネスは、投資コストも大きく実用化できたとしても市場に受け入れられるかどうかリスクの高い分野でもあり簡単ではない。                     |
| ・国・県・市・会議所等が連携して中小企業を盛り上げていく。   |

<若い人が戻ってこない>

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・固定資産税率を年数制限して安く、企業誘致、工場誘致を多くする。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・それは自由ですから、戻らせ無くても良いのでは無いかと思う。<br/>それよりお年寄りの住み良い町の方が先決では無いか？</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・産学協同。魅力がない（イベント、サークル、フェスタ、フェア、呼び物）</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・小手先政策ではダメ。長期的に文化度を高めることにつきる。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の経営者が自分の企業の良さをもっと発信すること。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業がないので、優秀な人材も残らない。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的に有名な企業立地と若い人が遊べる環境や上記のような街づくりが必要。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・住環境は良いが、働く場所（企業）が少ない。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・有能な人材を求める企業はあるものの、その企業があまり知られていない場合もあると思うので、企業紹介冊子といったものを作成し、学校や関係施設に配布設置することにより、地元企業を知ってもらう機会を作ってはどうか。（他と重複）</li> </ul>                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方なので都会に比べて就業機会が少ないのは仕方ない。サイエンスシティ等への企業誘致を進めていく等。企業にとって住みやすい（事業所を構えやすい）地域づくりが出来れば。地元に残りたかったとしても、就職するために県外の都市部へ出て行かなければならない場合も多い。（他と重複）</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に戻ってきていない？高校は生徒も保護者も地元志向が強くなってきている、不況の影響もあると思うが逆にとり今がチャンス、若者が住みやすい生活環境にする。次に、婚活事業でも実施して逆に都会の女性を三重に津市に引っ張り込む。</li> </ul>                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・不景気を好機と捉え、地元企業のPRを図り、若者の地元企業への就職を促進する。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・それほど若い人が少ないとは思わない。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に就職先があれば出て行かない。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学等があるので若い人（学生）を街に出かける気にする仕掛けが必要（例えばB級グルメ）<br/>津市内だけのB級グルメ→研究会→全国大会→発信</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が望むような就職先がない、遊び集う場所が少ない事もあり、都会に憧れ、出ていくのは仕方がないと思います。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供のころから街の良さ・魅力を伝え、自分たちの育った街を好きになることから、若者のエネルギーで街づくりがはじまると思います。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある町になれば、かえってくるのでは。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が希望するような企業・就職先少ない。若者が買いたい物が津に売っていない。</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの頃から大人が津市の良さを伝え、育てる。この街を自分たちが良くしていくんだと、感じるができる教育が必要。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・高学歴の就業機会は少ないが、東北・北海道・四国・九州のような流出ではないので仕方がない</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業として魅力のアピール不足の解消をはかる。<br/>【それも必要だが、学校の就職担当者の考え方の問題があるのではないか、社会、経済、生活価値観の変化により変動すると思う】。</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・他市から比べると結構、若い人は働いている。</li> </ul>  |

・人によって魅力は違うが、レジャー施設やショッピングセンターなどが無いと、東京・大阪等の大学に進学していた人にとっては、物足りないと感じると思う。需要と供給の問題があるので、津市にレジャー施設等は難しいと思うが、何をするにも名古屋・大阪に出て行かなくてはならないのも不便。個人の自由なので、県外進出は、避けられないと思う。



## ○津市の中長期ビジョンに関する意見具申

問題点1 「津市には素晴らしい観光資源が沢山あるが、それらを生かしていない。」

### 対策案

・「観光・グルメに関する大手旅行代理店に対するPR戦略が足りないように感じる」

- (1) 津観音、結城神社の梅林、偕楽公園の桜・つつじ、三多気の桜、高田本山専修寺、御殿場海岸、香良洲海岸、北畠神社、川上八幡宮、美杉あまごセンター、ヨットハーバー、香良洲戦争記念館、榊原温泉、青山風力発電施設等沢山の観光資源があるにも拘らず、これらが大手旅行代理店に対してPR出来ていないと感じる。
- (2) ただ、それ以前に合併した旧市町村の住民同士でそれらの観光資源をお互いに知らないと感じるので、まず観光資源を新津市の住民自らが知ることより始めるべきではないかと考える。そのためには、どのようにしてこれらの観光資源を市民に伝えるか、また実際にそこを訪問してもらい体験してもらうためには何をすべきかを考えるべきである。自らの市民に津市の観光資源を知らせ訪れてもらう事すら出来なければ、大手旅行代理店にPRして全国から観光客に訪問してもらいことなどとても無理であると考え。市民に新津市に何があるのかを伝える事は重要であると思います。これが出来れば街の一体感も醸成される可能性も出てくるかもしれませんし、松阪中部台公園に負けない安濃中央公園やサイエンスの中の公園など子供を遊ばせる場所が無いなどと言われる事は無くなるのではないのでしょうか。
- (3) では、そのために何を成すべきか。・・・・・・・・  
ここが問題であると考え。
- (4) もし、この問題が解決出来るのであれば、その次には観光客の利便性と住民の利便性のために、合併十か市町村の中心部を結ぶ交通ネットワークの構築を考えるとという夢にも繋がるかも。・・・・ また、そうすれば合併後の交流にも繋がるのではという期待も。・・・・・・・・

問題点2 「車がないと生活しにくい」

### 対策案

・「その昔、戦前には旧津市を中心として軽便鉄道が運営されていたと聞いています。今こそ時代を遡った生活スタイルを考えるべきではないでしょうか。」

- (1) 昔は自動車が普及しておらず、皆どのようにして旧津市の中心部に買い物に行っていたのでしょうか。すごく興味があります。
- (2) ところで、私は仕事の関係でドイツによく行きます。ドイツではパーク&ライドが普及しており、郊外の駐車場（50台程度か？・・）から路面電車または近郊電車（Sバーン）で街の中心部まで移動します。街の中心部は自動車の通行禁止区域を持っている街もあれば持っていない街もあるように思います。車社会であるドイツにおいて見事な車と公共交通機関の使い分けがなされています。フランクフルト、ミュンヘン、シュトゥットガルト、ウルム、カールスルーエ、ハノーバー、フライブルク等殆どの街でそのような交通体系になっているように思います。しかしなが

ら、何故車社会のドイツにおいてその様な事が出来るのか当初疑問にも思いましたが、ある時公共交通機関の維持運営については市民の協力があることを知りました。それは多くの市民が公共交通機関である路面電車と近郊電車の1ヶ月乗り放題チケットを購入しているということでした。このように、基本は市民が自分達の公共の足は自分達で守るという意識があるように感じました。

(3) では、我が国において、また我が津においてドイツのようなことは出来るのかということになると思います。これは難しいことであると思います。

しかしながら、このような発想をもし津市が出来れば大変面白いと思います。

(4) 例えば旧津市の中心部は路面電車をかなりのネットワークで走らせ、少し郊外では路面電車の駅を中心としたバスネットワークを構築し、バスの停留所には駐車場を設置する。また、旧市町村に対しては、各地域振興局のある町の中心部まで路面電車を走らせ、そこに駐車場を設置すると共に、そこから各地を循環するバスネットワークを構築する。そして、その料金はドイツのように市民が気軽に利用出来るような料金に設定し、市がその維持運営に対して補助金を出す。この様なパーク&ライドネットワークが出来れば、旧津市の中心部を中心としたものではありませんが、放射状の公共交通ネットワークが構築され車に100%依存しない生活が出来るのではないのでしょうか。

(5) ただし、これらの構想には莫大な費用と地域住民の理解が不可欠です。特に路面電車が敷設される沿線の住民にとっては迷惑千万な話かもしれません。また、公共交通機関の運営に関しては、現在バス運行を担っていただいている三重交通さんにとってプラスでないといけないと思います。設置費用に関して現在では難しいと思いますが、10年後くらいに燃料電池ライト・レール・トレインが開発されれば架線が必要なくなり、線路のみの敷設で済みますので可能性があるかもしれません。

(6) 夢物語であるかもしれませんが。 . . . .

(7) もし、このような案が実現出来かつ観光PRに成功すれば観光客がこれらの公共交通網を利用して訪れてくれるかもという期待もありますし、また旧津市の中心市街地の活性化にも繋がる可能性もあると思います。

### 問題点3 「観光資源のPR不足と共に観光戦略も必要では . . . 」

#### 対策案

・「観光資源をただPRするだけでは、他地域との競争に勝てるとは思えません。そこで、戦略的な観光戦略が必要と考えます。」

(1) 本年の6月より伊勢自動車道の津IC以南が無料になります。これはチャンスであると思います。まずは、津で食事をしてもらおう。高速道路を通過されてしまっているは何もありません。まずは津ICでバスや自動車を降ろす。このことに全力を傾注します。津での食事と言えば「うなぎ」です。大手広告代理店や芸能人、マスメディアを利用して津の「うなぎ」をPRする必要があると思います。一度降ろしてしまえば後は次いでに何か観光していこうという気持ちを利用する。この様な戦略を考えては如何でしょうか。

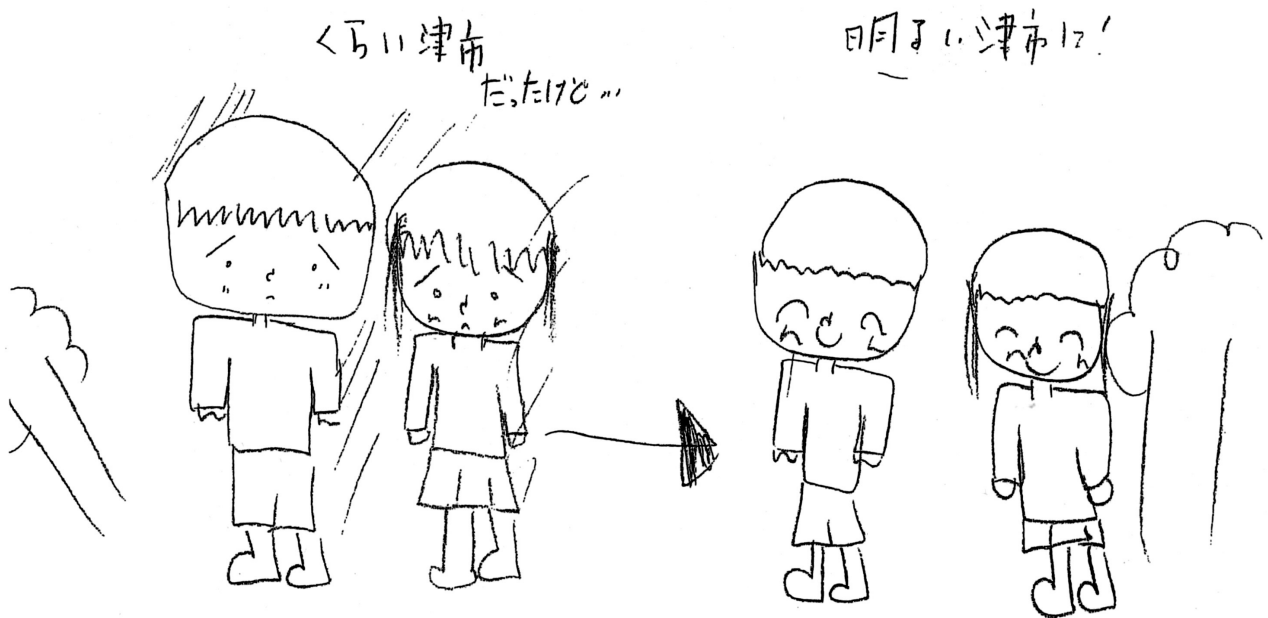
(2) 例えば、榊原温泉と「うなぎ」のコラボレーションで津で降りた観光客を榊原温泉にまで誘導し、温泉に浸かって「うなぎ」とか、更に一泊してもらおうとか、そうすると、更に次いでに青山高原とか北畠神社とか、・・・

(3) 色々な可能性が広がるのではないのでしょうか。

#### 問題点4 「産業集積がないので若者が帰ってこない」

##### 対策案

- ・「以上のような施策が果たせれば、第二名神・東名阪道を控えた津市に対して国内外の企業が工場誘致に魅力ある地域と考えてくれる可能性が高くなると思います。」





## 4. 現状からみた「津のまち」のイメージに対する意見

津商工会議所中・長期ビジョンの策定および推進に関する小委員会委員ならびに津商工会議所役職員が、IV 現状からみた「津のまち」のイメージに対する意見をいただいたものです。なお、基本的に原文のまま記載しています。

### ○「コンセプト」

<産業が活発で元気なまち、安全で住みやすく、自然が豊かな街3つのテーマが調和したまち>

「津のまち」のイメージから、強く連想できることは、安全で住みやすいまち、自然が豊かなまちということです。静かで、安全であり、住みやすく、また風光明媚で食もある。何といても気候が温暖であることだと思います。

北陸や東北地方の冬は雪で交通が閉ざされていても、津はほとんど雪が降らず温暖で、夏も比較的過ごしやすい。また、物価も安定しており、人柄も温厚で良いと思います。

その反面、これと言った産業や工業がなく、地域が活性化しているとは言えません。シャッター街が多いというのも納得できる話だと思います。

つまり、安全で住みやすく、自然が豊かなまちであることと、産業や工業が活発なまちとは、反比例している気がします。何かの犠牲のうえに何かが発展また衰退するのではないかと感じます。

このような中で、商工会議所は、何をすべきか、何を目指していくべきかを考えた時、すべてのことを満足させ突き詰めていくことは、大変難しく、すべてが満たされた理想的なまちが出来るのかなと思います。

小学生・中学生が求めているのは環境にやさしいまちを目指すことは、産業や工業で活力溢れる街づくりを求める商工会議所の使命は反比例するものを求めていくことになると思います。

「津のまち」のイメージは、現在、既に安全で住みやすい、自然が豊かなまちであると思いますので、今の安全で住みやすい、自然が豊かなまちを維持しながら、産業や工業で活力溢れる街づくりを求めていくことが必要だと思います。

そのためには、環境に良い企業・工場などを誘致し、世界に誇れるものを創造することがよいのではないかと思います。

### ○「コンセプト」

<ゆとりと生活のしやすい町にする>

・津市は1世帯当たりの貯蓄高も高く、また持ち家率も高いゆとりのある世帯が多い。また気候も温暖にて住みやすい。

このような理由から、あくせくと働かなければならないわけではなく、人間がおっとりとして、他の町から見れば元気のないように見えるが気にすることは無い。

・中心部に顔（シンボル）を作る。

地方の歴史ある中核都市には、どこにでも大名ゆかりの城があるが、津市にはない。

津観音、高田本山などはあるが、やはりシンボル（城）が欲しい。

○「コンセプト」

<住みやすい街に住んでもらおう。安心して住んでもらえる地域づくり>

- ・安心して働くことが出来る職場づくり
  - 環境対策の支援
  - 企業防災を含む事業継続計画（BCP）の普及促進
  - 受動喫煙防止対策の促進
- ・集客力の強化
  - 県外へ歴史、文化の発信
  - 観光産業を含め見学施設の充実への支援
  - イベントも含めリピーターが増えるような施策の実施
- ・交通ネットワークの整備
  - 物流、観光の拠点となるような整備
  - 高速道路、海上交通、中勢バイパスなどの既にあるまたは計画中の交通手段をどのように活用していくかの検討
- ・消費の拡大
  - 本社誘致・・・IT産業等東京が本社でなくてもよい企業の誘致活動の促進
  - 子供が安心して住める街づくり・・・教育の場で地元の良さをPRし、地元企業へ就職させる活動。
  - 大学を卒業しても津に住みたい、津で働きたいと思わせる施策。
  - 人口増につながる施策

○「コンセプト」

<住みやすい街づくり>

- ・全国から第2の人生の場として、来ていただく条件がすべて整っている（気候・交通アクセス・海の幸・山の幸 etc）（海あり、山あり）
- ・学校教育のプログラムに郷土を愛するための時間を設ける（歴史・文化・経済 etc）
- ・市民一人一人が情報発信と実践をする。
  - ・“何もない！”から“あるもののPR”
  - ・県外への手土産を地元の菓子優先
- ・中心部に常に集客できる施設をつくる
  - ・津観音を中心にした、立町・大門の再開発
- ・学生、若者が楽しめる施設

○津のまちに対する意見を読むと自然、歴史、景観、飲食、産業観光等の資源が相当数存在していると感じる。ただしそれらは点でしかなく統一感に乏しい。地域ブランドあるいは会議所ブランドを確立し、事業を絡めてそれらを結びつけ点を線へと変えていく必要があるのではないかと。ブランド化の目的を明確にして他団体と連携を図りながら、「ブランドの分野や定義」「認定の基準」「認定後の支援」「ブランドの活用方法」「発信の方法」等について協議して募集につなげていく。伊勢志摩という大観光地への通過点になっている当地

の不利は否めないが、会議所が一石を投入することにより動き出せばと考える。現在、運営政策委員会「地域知財の活用に関する小委員会」において津ブランドの確立に向けての協議が始まっており、組織化を図りながら進めていきたい。

○いただいた「いろいろな意見から考えられる「津のまち」イメージ（案）」を読んで感じたことは、私が津青年会議所に所属している時に議論したテーマ「津の活性化と将来像」と似ているという印象でした。青年会議所はご存じのように商工会議所とは異なり、商工業の発展という目的は主目的ではありませんでした。当時の結果として、目指すべき津の活性化と将来像は「目指せ住みたさ日本一」でした。これは、津の現状を踏まえた時に商工業の発展を基礎として津市の発展を考えるには無理があるのではないか。そして、津が持つ地理的優位性、自然環境、そして衣食住のすべてにおいて他の地域より優れているという勝手な地元住民である我々の思いを考えたときに「目指せ住みたさ日本一」にたどり着いたという経緯でした。

しかしながら、当会は商工会議所です。商工業の発展を主目的として、青年会議所のように「目指せ住みたさ日本一」を標榜するとなると極めてハードルが高くなってしまいます。

例えば、「津のまちに住みたい」と思ってもらい市外から移り住んでもらうとなると、若い世代の方には働き場所が必要になります。逆に、仕事をリタイアした高齢者に移り住んで貰ったら福祉予算が膨らみ津市の財政が破綻してしまう危険性が出てきます。このように、当時の青年会議所が標榜した「目指せ住みたさ日本一」は理想が先行したところがあったと思います。

今回求められているのは商工会議所として商工業の発展を主目的とした意見であると思いますのでその様な観点から意見を述べます。

#### 意見

- ・今津市に住んでいる住民の皆さんを対象として、津市の域内において居住の再配置を考えてみては如何でしょうか。例えば、高齢化問題は深刻な社会問題になっています。そこで、様々な状態の高齢者の方々（健常な方から介護が必要な方まで）に空き地（未利用地）が増えてきた中心市街地に移り住んでいただく。そして、居住者を増やすことにより更に人々を中心地に引き寄せ、中心市街地の活性化に繋げる。

また、多くの健常な高齢者の方々にお住まいいただいた中心市街地をより便利にするために、主要な病院を循環する交通手段を考える。更に次の段階では中心市街地を中心とした交通ネットワーク網を考える。

但し、そのためには、中心市街地の居住人口が高齢者のみではなく、もっとどんどんと増える必要があると思います。

#### ○＜ビジョン作成について＞

- ・工業立国として、成長して来た日本経済も、此処に来て変革を余儀なくされ、産業構造も、大規模工場が海外移転する等、就業面での問題が起こりつつある。

その昔、荒地に金鉱が発見された。人々が集まり町が出来、ホテルやレストラン、社交場

も賑わった。しかし金鉱脈が無くなると、その町は廃墟に成った。

つまり、就労機会が無くなると、町は成立しない。

今、日本の農村でも漁村でも、限界集落が増えている。就労が成り立たないからである。

この流れは、地方都市にも次第に波及する。

幸い、日本では中小の企業でも、高い技術を持つところが多い。

これからは、この中小の技術集団を中心に、経済政策を考えて行かなければ成らないのでは無いだろうか。中小の工場。

1. 「津商工会議所は、最低条件として、就労機会維持拡大の為、真剣に他地域との差別化を計ることを、津市と市民全体に啓蒙して行かなければ成らない。」

広報や様々な活動を通じて、その必要性を行政や市民、産業界に訴え経済活動の衰弱化を防止しないと、廃墟とまでは行かなくても駄目に成ってしまう。

2. お金持ちの中高年を動員する。

若者は、貧しい。携帯や車にお金がかかる。

お金を持っている多くの中高年者は、遊びを知らない。遊ばずに一生懸命働いて来られた。その様な方々が多い。

特に、女性よりも男性。男性は遊びを知らない。遊び方も知らない。外に出かけない。

この人達に焦点を当てる。

このことを、真剣に考え津市の繁栄に繋げる。

テレビでは、高齢者向けの通信販売が盛んである。健康食品の販売も盛ん。

明らかに、高齢者をターゲットにしている。

「流行や一時的な特需は怖い」

#### NHKの大河ドラマ

赤穂浪士全盛の時期、赤穂市を訪れた。お店は繁盛し客でごった返していた。

お店の主人は、平時の何倍もの客数との弁で、ご機嫌であった。

一年後、寄って見ると駐車場には、ロープが張られて、閉店が目立ち見る影も無かった。

たった一年後の話。津の高虎論も要注意。

#### オリンピック特需

長野オリンピックの一年後、長野県の産業界は、その反動で深刻な不況に陥った。

#### 清里の若者達

昨年秋、清里に立ち寄った。以前から若者で賑わっていた町は、半数が閉店、売り物件の看板も目立ち、廃墟同然の感があった。一時の流行は怖いものだと思った。

#### 小中学生の意見

若い人に夢を与えることは大切な事だと思います。これは将来原動力に成る。

注意しなければ成らないことは、欲しい、欲しいと言っても、ファッション的に有ればいいな。の感もしなくは無いです。

こんなところがあったら、買いますか？と聞くと、多分買わない。利用はしない。と答える様な気がする。有ればいいな。との話では無いだろうか？

お店や施設の設置には、経済的な裏づけ。存続と維持には、収支の成立が求められる。

ビジョンは、中々難しいので、日頃考えていることを書きました。

この様な、一面も含めて頂けるとどうでしょうか？

#### <アンケートの感想>

アンケートで、回答者が無意識に、あるいは意識的に比較しているものは、正に理想の「夢社会」と認識した方が良いのではないだろうか？

世界的には、後進国の追い上げが有り、国内では少子化、高齢化社会の流れが有る。就労機会を提供して来た大規模工場は、海外シフトの方向に有る。又、国や地方の財政は、破綻寸前でも有ります。

このような状況の中で、夢は良いものとしても、現実には贅沢を言い過ぎる感が否めない。私は、この普通程度の地方都市、津がとても気に入っています。理由は、アンケート結果、皆様ご存じのとおりです。

公害や基地問題、極端な過疎、市の財政破綻、治安悪化、漁獲量の減少等々、本当に困る問題を抱えていない。まあまあの街だと思います。

これからの課題は経済力の保持努力と、山間地域が加わったことで、交流することに依り、「海と山間部の街」の良さを理解し合う事が、大切だと思います。

遠くの観光地よりも、広くなった市内の観光地発掘も面白いと思います。

若い人ばかりで無く「老人力」高齢者への対応活動も課題にしたい。

○津市のまちづくりを考える為、いろいろな調査・研究は良いことと思われるが、あれもこれもと手掛けるのではなく、山も川も海もある津市であり何処か 1 点に集中し取組めばと思う。その 1 点が完成すれば次という具合に手掛けていく、まず、山・川・海の順に下っていけば・・・

山・・・榊原温泉と自然豊かな青山高原

川・・・津市を東西に流れる雲出川

海・・・松林の綺麗な御殿場海岸

○「出る杭は打たれる」は、同感です。

新しい事にチャレンジすると、応援する人もいますが、どちらかというと、足を引っ張る傾向にある土地柄のように感じます。

先頭きって進む事に不慣れで、「長いものに巻かれろ」傾向が多いように思います。

津市内に大学生はたくさん住んでいます。おとなしく、節約志向で、派手さはありませんが、若さをパワーにして「何か？」を見出したいものです。

○津市の行動マップを作成する。内容は若い女性や、子供が本当に楽しめる内容のマップにし来客してもらえるようにする。

・外に向かって PR・発信していく役割を津市・商工会と連携で果たしていく

・他市の真似で構わないので、幾つかのB級グルメマップ・甘味マップなどの作成

○情報発信に関する部分が弱いと思われるのでメディアとの連携強化

- ・情報発信の強化
- ・商店街や地域の若手後継者の育成強化
- ・大学との連携

○観光資源をうまく活用できるように、さくら祭りや、結城の梅、潮干狩りや季節季節の催しと温泉などを組み合わせたコラボや、季節のイベント等の提案や企画などを、温泉組合、商店街、大学生などと協力して行い、「美味しく～楽しめる」場所などの発信を行う。

- ・白塚漁港等にもお魚祭りなどもあり、小女子の季節や、あさりの季節など安価で買える情報提供などの発信を行う。
- ・県外の方に向けて、ゴルフ場と温泉はセットで楽しみ、安価で美味しい食べもの屋を紹介するサイトをつくり、観光協会等をあわせて会員企業を紹介するなどしてはどうか・・・。
- ・こんな良い所があると・・・PRし発信すること、地域を知ることが会議所の役目ではないかと思う。

○「住みやすい街づくり」をコンセプトにして、全国から第2の人生の場として、来ていただく条件がすべて整っている（気候・交通アクセス・海の幸・山の幸 etc）（海あり、山あり）

- ・学校教育のプログラムに郷土を愛するための時間を設ける（歴史・文化・経済 etc）
- ・市民一人一人が情報発信と実践をする。
  - ・“何も無い！”から“あるもののPR”
- ・県外への手土産を地元の菓子優先

○災害も少なく、温暖で非常に住みやすく、また食材も豊富な街である。

- ・閑静で上質な居住地域と、津の市民が誇りに思う老舗の伝統を皆で守り続けることが大切である

## 5. 市内小・中学生へのアンケート調査結果

### I 調査目的

津商工会議所の中・長期ビジョンを策定するにあたり、津地域の子供達が将来、どのような津市になれば良いか、どのような津市に住みたいか等について、当会議所管内の小・中学生の生徒達の声聞き、ビジョン策定に反映させていくため実施しました。

### II 調査概要

- (1) 調査期間 平成 21 年 7 月 10 日(金)～9 月 1 日(火)
- (2) 調査対象 当会議所管内の小学校 29 校 6 年生、中学校 12 校 3 年生
- (3) 調査方法 津市教育委員会を通じて、アンケート調査票を配布及び回収した。
- (4) テーマ 小学生：「あなたが、大きくなったとき、どんな津市になっていたらいいですか？」  
中学生：「あなたは、将来、どんな津市になっていたらいいと思いますか？」
- (5) 回収数 小学校 1,564 名、中学校 1,224 名
- (6) 集計方法 文章の中のキーワードからとりまとめを行った。また、分量の関係から小学校を北西部、北東部、西部、中央部、南部、久居東部、久居西部の 7 地域、中学校を北部、中央部、南部、久居の 4 地域に区分けした。(地域は、当商工会議所独自の区分けによるもの)

### Ⅲ 意見のまとめ

#### 1. ほとんどの学校で環境に関する意見が最も多くみられた

みんなが木を植えるまち

みんなが花を植えるまち

公園のあるまち

川・海をきれいに

ポイ捨てのないまち

#### 2. ほとんどの学校でいじめに関する意見が多くみられた

#### 3. 津を有名にするものがほしいという意見も多くみられた

津ぎょうざ

しろもち君

キャラクター

#### 4. お年寄りに優しいまち

#### 5. バリアフリー・ユニバーサルデザインのまち

ユニバーサルデザインという回答は小学生に多く、学校で取り組んでいるところもあった

#### 6. 合併に疑問を持つ意見も見られた

#### 7. イベントが多くあるまち

地域の独特なイベント（祭り）をあげる意見もあった。

#### 8. 子どもの意見らしく「学区外に子どもだけで買い物に行ける」「学校にクーラー」と言う意見が多くみられた

#### 9. 東京の109や原宿のようなまち

津は田舎だという指摘

駅前に活気があるまち

#### 10. 今のままでよいという意見もみられた

#### 11. 子どもが安心して暮らせるまち

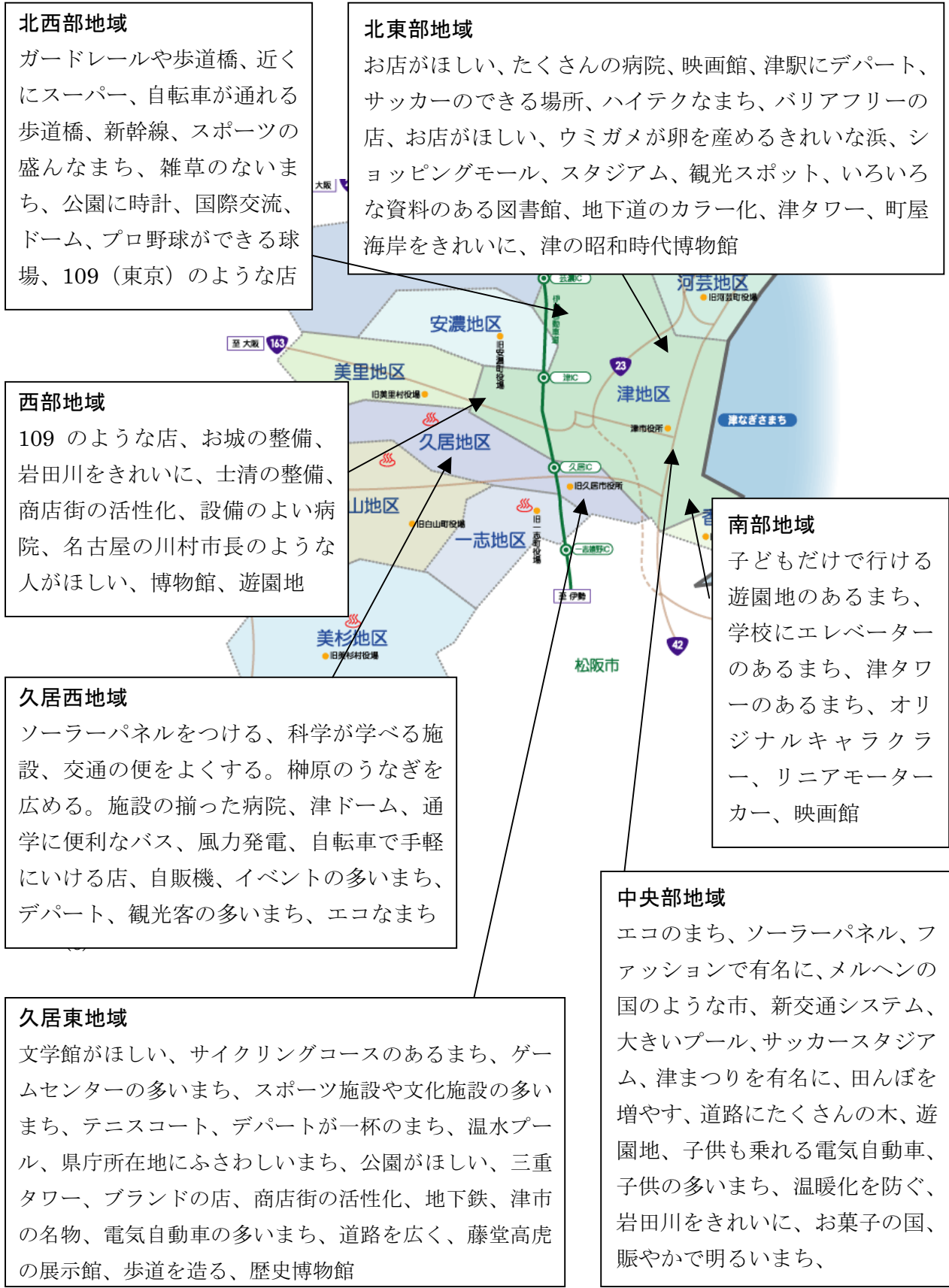
ボランティアが通学時間に外に出る



#### IV 意見の概要

(Ⅲ 意見のまとめ以外で見られた意見を抽出した)

##### (1) 小学校の生徒の意見



## (2) 中学校の生徒の意見

### 北部地域

イベントホール、ショッピングセンター、スポーツ場、バスの数を増やしてほしい、バリアフリー、医療機関、映画館、亀山と合併、高野尾に駅を作してほしい、市役所に意見箱を置く、商店街の活性化、昭和の風景を思いださせる津市に、松阪市と比べると便利でない、人工芝のあるサッカー場、図書館を増やしてほしい、大型店を増やしてほしい、津の影は薄すぎる、津駅を大きくしてほしい

### 中央部地域

109のようなショッピングセンター、ゲームセンターを増やす、コンビニがほしい、ジャズコンサート場、スポーツセンター、ディズニーランド、テーマパーク、観光客を多く、芸能人が多く来るTV局がほしい、公共のプールがほしい、公園がほしい、祭りの多いまち、自然と調和したまち、自転車置き場がほしい、自転車用の道、新幹線、昔のような商店街、大規模な地下街、通学の道を明るく、



### 久居地域

イベントを増やす、エコなまち、オリンピック選手を出す、スポーツの出来る場所を、ソーラー発電をすべての家に、バス代を安く、雲出川を釣りで有名に、映画館がほしい、音楽祭、高校を義務教育に、若者向けのデパート、段差を減らす、藤堂高虎で有名に、道路整備、風力発電、日本の文化をアピール、遊べる環境を増やしてほしい、学校のレベルをあげる

### 南部地域

TVが綺麗に映るようにしてほしい、Jリーグがほしい、賑やかなまち、まとまりがあって市民中心な津市、外国人が仕事出来るまち、高茶屋を都会に、イベント、津まつりを今と違う形に、新幹線、店が多い津、電車の数を増やす、年寄りのため段差や階段をなくす

## V 子供の意見の問題点の整理

文章の中のキーワードを紙に書いて床に置きながら KJ 法を利用して生徒の意見を解析し、問題点を整理しました。

また、文章だけでなく絵を書いていただいた生徒達も見受けられました。これは大変参考になると考え、機会があれば直接話を聞くことも検討していきます。

